

作業療法科 (2 学年)

2024 年度 シラバス目次

科目名	項
レクリエーション学Ⅱ	2
運動学Ⅱ	3
内科学	7
神経内科学	9
小児科学	11
整形外科学	13
薬理学	15
社会保障制度論	17
作業療法概論Ⅱ	25
基礎作業学各論Ⅱ	28
作業療法管理学	30
老年期障害評価学	32
身体障害評価学Ⅱ	35
精神障害治療学Ⅰ	38
精神障害治療学Ⅱ	42
老年期障害治療学	44
発達障害治療学	47
身体障害治療学Ⅰ	50
身体障害治療学Ⅱ	54
日常生活活動学Ⅱ	57

科目名	項
義肢装具学	59
職業関連活動学	62
作業療法臨床能力演習	64
作業療法臨床研究Ⅰ	65
地域リハビリテーション学	66
生活環境学	70
地域作業療法学	73
臨床実習Ⅱ	74

学科・年次	作業療法科 2年次
科目名	レクリエーション学Ⅱ
担当者	田中敏彦・非常勤講師
単位数（時間数）	2単位（30時間）
学習方法	演習
教科書・参考書	なし

授業概要と目的	
<p>高齢化社会を迎え、作業療法士の職域としての老年期障害分野も拡大してきている。機能訓練以外にも介護予防・健康増進・肥満対策といった身体活動とともに、人生の質の向上を目指しての高齢者との関係作りができる活動としてダンスを習得する。なお、病院等で臨床経験のある作業療法士と各ダンス専門の外部講師で各回の講義を行う。</p>	

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「コンテンポラリーダンスの治療的応用①」 コンテンポラリーダンスを通して、ノンバーバルな身体表現を学ぶ。合わせてコンテンポラリーダンス特有の動きから、ストレッチ法・リラクゼーション法を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の担当パートの振付を一曲通して行うことができる。 コンテンポラリーダンスの治療的応用を考えることができる。 	田中敏彦 外部講師
2				
3	後期	「ヒップホップダンスの治療的応用①」 ヒップホップダンスを通して、ダンスの基本となるステップ・リズムを学び、糖尿病の運動療法・ダイエットプログラムとしての応用を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 基本となるステップ・振付を一曲通して行うことができる。 ヒップホップダンスの治療亭応用を考えることができる。 	田中敏彦 外部講師
4				
5	後期	「コンテンポラリーダンスの治療的応用②」 コンテンポラリーダンスを通して、ノンバーバルな身体表現を学ぶ。合わせてコンテンポラリーダンス特有の動きから、ストレッチ法・リラクゼーション法を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 基本となるステップ・振付を一曲通して行うことができる。 ヒップホップダンスの治療亭応用を考えることができる。 	田中敏彦 外部講師
6				
7	後期	「コンテンポラリーダンスの治療的応用③」 コンテンポラリーダンスを通して、ノンバーバルな身体表現を学ぶ。合わせてコンテンポラリーダンス特有の動きから、ストレッチ法・リラクゼーション法を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 基本となるステップ・振付を一曲通して行うことができる。 ヒップホップダンスの治療亭応用を考えることができる。 	田中敏彦 外部講師
8				

9	後期	「コンテンポラリーダンスの治療的応用④」 コンテンポラリーダンスを通して、ノンバーバルな身体表現を学ぶ。合わせてコンテンポラリーダンス特有の動きから、ストレッチ法・リラクゼーション法を学ぶ。	・基本となるステップ・振付を一曲通して行うことができる。 ・ヒップホップダンスの治療亭応用を考えることができる。	田中敏彦 外部講師
10				
11	後期	「ヒップホップダンスの治療的応用②」 ヒップホップダンスを通して、ダンスの基本となるステップ・リズムを学び、糖尿病の運動療法・ダイエットプログラムとしての応用を学ぶ。	・基本となるステップ・振付を一曲通して行うことができる。 ・ヒップホップダンスの治療亭応用を考えることができる。	田中敏彦 外部講師
12				
13	後期	「コンテンポラリーダンスの治療的応用⑤」 コンテンポラリーダンスを通して、ノンバーバルな身体表現を学ぶ。合わせてコンテンポラリーダンス特有の動きから、ストレッチ法・リラクゼーション法を学ぶ。	・基本となるステップ・振付を一曲通して行うことができる。 ・ヒップホップダンスの治療亭応用を考えることができる。	田中敏彦 外部講師
14				
15	後期	「まとめと試験」 ・各ダンスの発表を行う。	・各ダンスの発表後の振り返りができる。	田中敏彦 外部講師
成績評価方法		出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 実技試験（発表）を行い、60 点以上を合格とする。		
準備学習など				
留意事項				

学科・年次	作業療法科 2年次
科目名	運動学Ⅱ
担当者	角本 裕之進
単位数（時間数）	2単位（60時間）
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	Medicalview 動作分析バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践

授業概要と目的

作業療法分野の評価学では患者さんの動作を観察して、その中にある異常性の原因を解明する技術「動作分析」が求められている。

本授業では基本動作（臥位・座位・立位・立ち上がり・着座・歩行）に関して、正常運動のメカニズムの理解、そして異常運動を正しく観察すること、原因を推測することを目的とする。

また日常生活活動（以下ADL）に関しても動作分析が記載できるようにする。

なお、作業療法士として臨床経験のあるものが、その経験を生かして授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「オリエンテーション」 「動作分析・動作観察とは」 ・動作分析と動作観察の違いを理解する	「動作分析・動作観察とは」 ・動作分析とは何か述べる ・動作観察とは何か述べる ・制限因子の種類について記述する ・観察すべきポイントを述べる	角本裕之進
2	前期	「動作分析のポイント」 動作分析に必要な「姿勢」について知る	「動作分析のポイント」 ・姿勢とは何か述べる ・姿勢とは何か調べる ・矢状面、前額面の違いについて述べる ・スティックピクチャーとは何か述べる	角本裕之進
3	前期	「背臥位の動作分析」 背臥位を観察し、その特徴を習得する	「背臥位の動作分析」 ・背臥位の特徴を述べる ・背臥位の観察するポイントを述べる ・背臥位の状態を実際に見せる ・観察した内容を列記する ・背臥位時の姿勢筋緊張の程度を触診する	角本裕之進
4				
5	前期	「寝返りの動作分析」 寝返りを観察し、その特徴と異常動作を列記する技術を習得する	「寝返りの動作分析」 ・寝返りの正常メカニズムを知る ・第1相～第3相について自身で模倣する ・各相で重要な筋を記述する ・観察した動作を記述することができる	角本裕之進
6				
7	前期	「起き上がりの動作分析」 起き上がりを観察・分析し、その特徴と異常動作を記述する技術を習得する	「起き上がりの動作分析」 ・起き上がりの正常メカニズムを知る ・第1相～第4相について自身で模倣する ・オンエルポー・オンハンドの違いを述べる ・各相で重要な筋を記述する ・観察した動作を分析し、記述することができる	角本裕之進
8				

9	前期	「座位の動作分析」 座位の観察を行い、特徴を記述することができる	「座位の動作分析」 ・座位を観察する要点を述べる ・静的座位、動的座位の違いについて述べる ・支持基底面とは何か調べる ・座位の筋緊張を実際に触診する	角本裕之進
10				
11	前期	「立位の動作分析」 立位の観察を行い、特徴を記述することができる	「立位の動作分析」 ・立位を観察する要点を述べる ・立ち直り反応・保護伸展反応を模倣することができる ・立位の筋緊張を触診する ・観察した立位の特徴を予測する	角本裕之進
12				
13	前期	「立ち上がり・着座の動作分析①」 立ち上がり・着座のメカニズムを理解する	「立ち上がり・着座の動作分析①」 ・立ち上がりのメカニズムを知る ・立ち上がりの各相を模倣する ・着座の各相を模倣する ・スタビリゼーションストラテジーについて述べる ・モーメントムストラテジーについて述べる	角本裕之進
14				
15	前期	「立ち上がり・着座の動作分析②」 立ち上がり・着座のメカニズムを理解し、観察した特徴を記述することができる	「立ち上がり・着座の動作分析②」 ・観察した動作を各相に分けて記述する ・観察した動作を模倣することができる ・異常動作の原因を推論する	角本裕之進
16				
17	前期	「歩行の動作分析①」 歩行の立脚相を理解する	「歩行動作の動作分析①」 ・歩行とは何か調べる ・歩行率、歩行比とは何か述べる ・ステップ、ステップ長さの違いについて述べる ・立脚相を5相に分け模倣する ・イニシャルコンタクト、ローディングレスポンス、ミッドスタンス、ターミナルスタンス、プレスウィングの特徴を述べる ・ロッカー機能について述べる	角本裕之進
18				
19	前期	「歩行動作の動作分析②」 歩行の遊脚相を理解する	「歩行動作の動作分析②」 ・遊脚相を3相に分け模倣できる	角本裕之進

20			<ul style="list-style-type: none"> ・遊脚相のメカニズムを述べる ・ウィンドラスメカニズムについて述べる 	
21	前期	「食事の動作分析」 ・食事動作を観察し、動作観察したものを記述することができる ・動作制限の原因を推論する	「食事の動作分析」 ・食事動作に必要な運動要素を述べる ・食事動作を細分化することができる ・実際の食事動作を行う ・観察した内容を記載する	角本裕之進
22				
23	前期	「更衣の動作分析」 食事動作を観察し、動作観察したものを記述することができる ・動作制限の原因を記述する技術を知る	「更衣の動作分析」 ・更衣の着脱を実際に行う（参加する） ・衣服の部位を述べることができる ・片麻痺患者の更衣方法を実施する ・観察した動作を具体的に記述する	角本裕之進
24				
25	前期	「排泄の動作分析」 排泄動作を観察し、観察したものを記述することができる ・動作制限の原因を記述する技術を知る	「排泄の動作分析」 ・排尿、排便について調べる ・排泄動作の動作手順を述べる ・排泄動作の模倣を実施する ・観察した動作に関して記述する ・動作制限の原因を推測する	角本裕之進
26				
27	前期	「入浴の動作分析」 入浴動作を観察し、観察したものを項目に分け、記述することができる	「入浴の動作分析」 ・入浴動作の特徴を述べる ・入浴動作の運動項目を具体的に述べる ・観察した入浴動作の特徴を列挙する	角本裕之進
28				
29	前期	「整容の動作分析」 整容動作を観察し、観察したものを項目に分け、記述することができる	「整容の動作分析」 ・整容動作の運動項目を具体的に述べる ・観察した入浴動作を、運動項目に沿って記述する	角本裕之進
30	前期	まとめと試験 実際の映像を元に動作分析を行い、記述する 動作分析によって推測された異常動作の原因を推測する技術を修得する	本授業で学んだ、正常メカニズムを理解し、比較することで異常動作の分析が可能になる。 異常動作の原因を推測する	角本裕之進
成績評価方法		出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 基本動作等の映像を見て動作分析を行う筆記試験（100 点）、60 点以上を合格とする。		

準備学習など	運動学 I の事項を理解しておくことが望ましい
留意事項	

学科・年次	作業療法科 2年次
科目名	内科学
担当者	齋藤 研
単位数 (時間数)	2 単位 (30 時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	標準理学療法学・作業療法学 内科学 第4版 (医学書院)、

授業概要と目的
内科学は、臨床を行う上で、重要な科目です。作業療法士の国家試験では、出題数は少ないものの、狭く深い内容が問われています。それゆえ、疾患と症状から臨床像の理解を深めます。講義は臨床現場で経験している医師が担当します。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	オリエンテーション、 呼吸器疾患を理解する①	内科学の重要性を理解し、積極的に理解するよう努めることができる。さらに、気管支喘息や慢性閉塞性肺疾患などの最重要疾患について理解し、それらの特徴を述べることができる。	齋藤 研
2	前期	呼吸器疾患を理解する②	間質性肺炎や気胸などの疾患について理解し、それらの特徴を述べることができる。	齋藤 研
3	前期	循環器疾患を理解する①	虚血性心疾患やうっ血性心不全などの疾患について理解し、それらの特徴を述べることができる。	齋藤 研
4	前期	循環器疾患を理解する②	弁膜症や動脈疾患や静脈疾患などについて理解し、それらの特徴を述べることができる。	齋藤 研
5	前期	肝胆膵疾患を理解する①	ウイルス性肝炎や肝硬変などの肝臓疾患について理解し、それらの特徴を述べること	齋藤 研

			ができる。	
6	前期	肝胆膵疾患を理解する②	アルコール性肝障害や脂肪肝などの肝疾患および各種胆嚢、膵臓疾患について理解し、それらの特徴を述べることができる。	齋藤 研
7	前期	血液、代謝、内分泌、腎臓、膠原病、消化管疾患について知る①	各分野におけるグループでの討議を通じて、各自の課題を調べ、その課題をプレゼンテーションにより説明できるように準備する。	齋藤 研
8	前期	血液、代謝、内分泌、腎臓、膠原病、消化管疾患について知る②	各分野におけるグループでの討議を通じて、各自の課題を調べ、その課題をプレゼンテーションにより説明できるように準備する。	齋藤 研
9	前期	血液疾患を理解する	貧血、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、出血性疾患などについて理解し、その特徴を述べることができる。	齋藤 研
10	前期	代謝疾患を理解する	糖尿病、脂質異常症、メタボリックシンドローム、痛風などについて理解し、その特徴を述べることができる。	齋藤 研
11	前期	内分泌疾患を理解する	下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎疾患などについて理解し、その特徴を述べることができる。	齋藤 研
12	前期	腎臓疾患および泌尿器疾患を理解する	腎不全、ネフローゼ症候群なえおの腎臓疾患および泌尿器疾患などについて理解し、その特徴を述べることができる。	齋藤 研
13	前期	膠原病疾患を理解する	慢性関節リウマチ、SLE、皮膚筋炎などの膠原病疾患およびベーチェット病などの膠原病類縁疾患について理解し、その特徴を述べることができる。	齋藤 研
14	前期	消化管疾患を理解する	食道疾患、消化性潰瘍などの胃疾患、炎症性腸疾患や腸閉塞などの腸疾患について理解し、その特徴を述べることができる。	齋藤 研
15	前期	科目修了試験、まとめ		齋藤 研
成績評価方法		科目修了試験（100%）。 合計 100 点満点		

準備学習など	
--------	--

学科・年次	作業療法科 2年次
科目名	神経内科学
担当者	益田 健史
単位数（時間数）	2 単位（30 時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	教科書：標準理学療法学・作業療法学（専門基礎分野） 神経内科学（医学書院） 授業開始前に配布される講義プリントを使用。 講義プリント：標準理学療法学・作業療法学（医学書院）、メディカルスタッフのための 神経内科学（医歯薬出版株式会社）、内科学（朝倉書店）参照

授業概要と目的
神経内科疾患の全体像を把握し、中枢神経疾患・末梢神経疾患・筋疾患等を中心に理解を深め、その知識を身につける。 なお、講義は臨床現場で経験している医師が担当します。

回 (コマ)		「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「神経疾患とは」	<ul style="list-style-type: none"> 神経疾患の総論・全体像を把握する。 神経疾患の症候について理解・説明できる。 	益田 健史
2	前期	「脳血管障害」 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 一過性脳虚血発作 ▶ 脳卒中 <ul style="list-style-type: none"> ・脳出血 ・脳梗塞 ・クモ膜下出血 	<ul style="list-style-type: none"> 脳血管障害の分類 一過性脳虚血発作を理解・説明できる。 クモ膜下出血・脳出血・脳梗塞などを理解・説明できる。 	益田 健史
3	前期	その他頭部の出血 <ul style="list-style-type: none"> ・硬膜下血腫 ・硬膜外血腫 	<ul style="list-style-type: none"> その他、外傷性の硬膜外血腫や硬膜下血腫などの頭部の出血について理解・説明できる。 	
4	前期			

5	前期	「変性疾患」 ▶ 運動ニューロン疾患 ・筋萎縮性側索硬化症 ▶ 錐体外路の変性疾患	・変性疾患を理解・説明できる。 ・筋萎縮性側索硬化症などの運動ニューロン疾患を理解・説明できる。 ・パーキンソン病などの錐体外路系変性疾患を理解・説明できる。	益田 健史
6	前期	・パーキンソン病 ・パーキンソン症候群 ▶ 認知症関連の変性疾患 ・Alzheimer 病	・Alzheimer 病などの認知症関連の変性疾患を理解・説明できる。 ・脊髄小脳変性症を理解・説明できる。	
7	前期	・Lewy 小体型認知症 ・前頭側頭葉認知症（ピック病） ▶ 脊髄小脳変性症		
8	前期	「脱髄疾患」 ▶ 多発性硬化症	多発性硬化症などの脱髄性疾患を理解・説明できる。	益田 健史
9	前期	「筋肉疾患」 ・重症筋無力症 ・筋ジストロフィー	重症筋無力症・筋ジストロフィーなどの疾患を理解・説明できる。	益田 健史
10	前期	「末梢神経疾患」 ・ギランバレー症候群	ギランバレー症候群などの末梢神経疾患を理解・説明できる。	益田 健史
11	前期	「感染症疾患」 ・髄膜炎 ・脳炎、脳症	髄膜炎・脳炎・脳症の違いと特徴を理解する。	益田 健史
12	前期			
13	前期	「腫瘍性疾患」	脳腫瘍の発生由来とその特徴について理解・説明できる。	益田 健史
14	前期	「てんかん」	2017年に大幅改定された病型分類を中心にてんかんに対する理解を深める。	益田 健史
15	前期	「その他疾患類」 ・高次機能障害など	その他疾患類の理解を深める。	益田 健史

成績評価方法	科目終了試験による評価判定。 試験は配布プリント内から出題します。
準備学習など	プリントの復習。
留意事項	授業で配布したプリントをファイルして保存する事。

学科・年次	作業療法科 2年次
科目名	小児科学
担当者	益田 健史
単位数（時間数）	2単位（30時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	講義プリント：標準理学療法学・作業療法学 小児科学第5版（医学書院）、 内科学（朝倉書院）、シンプル病理学（南江堂）参照

授業概要と目的
小児の疾患と障害の特性を理解し、その知識を身につける。 担当教員は、病院等において医師としての臨床経験を活かして授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	小児科学概論	小児の発育と特徴、保健について理解する。	益田 健史
2	前期	新生児・未熟児疾患	新生児・未熟児に生じる特徴的病態を理解する。	益田 健史
3	前期	先天異常と遺伝病	遺伝子・染色体異常及び、環境要因により生じる身体的異常を理解する。	益田 健史

4	前期	神経・筋・骨系疾患	中枢及び末梢性神経疾患、筋・骨系疾患の特徴を理解する。	益田 健史
5	前期	循環器疾患 I	先天性心疾患及び後天性心疾患の解剖学的構造・血行動態を理解する。	益田 健史
6	前期	循環器疾患 II	同上	益田 健史
7	前期	呼吸器疾患	小児で特徴的に認められる呼吸器疾患を理解する。	益田 健史
8	前期	消化器疾患	先天性及び後天性消化器疾患を理解する。	益田 健史
9	前期	内分泌・代謝疾患	各種ホルモンの働きを知り、代謝疾患の病態・治療を理解する。	益田 健史
10	前期	血液疾患	血球成分・血漿成分の働きを知り、小児で認められる特徴的な血液疾患を理解する。	益田 健史
11	前期	感染症	細菌・ウイルス感染症を中心に、小児に生じる代表的な感染症の診断・治療を理解する。	益田 健史
12	前期	免疫・アレルギー疾患	人体の免疫システムを知り、免疫の関わる疾患の病態・診断・治療を理解する。	益田 健史

13	前期	腎・泌尿器系疾患、 腫瘍性疾患	小児で特徴的に認められる腎疾患を 理解する。 小児で特徴的に認められる腫瘍性疾患を 理解する。	益田 健史
14	前期	心身症関連疾患	睡眠障害、心身医学的疾患、重症心身障害 について理解する。	益田 健史
15	前期	眼科・耳鼻科的疾患 まとめ	小児に特徴的な眼科・耳鼻科的疾患を 理解する。	益田 健史
成績評価方法		科目終了試験による評価判定。 試験は配布プリント内から出題します。		
準備学習など		プリントの復習。		
留意事項		授業で配布したプリントをファイルして保存する事。		

学科・年次	作業療法科 2年次
科目名	整形外科学
担当者	大塚嘉久
単位数（時間数）	2単位（30時間）
学習方法	講義 自学自習
教科書・参考書	標準整形外科学 第15版 医学書院

授業概要と目的	
整形外科疾患について理解を深め、チーム医療の一員としてリハビリテーションを担う作業療法士の実践に寄与することを目的とする。担当教員は、病院等において医師としての臨床経験を活かして授業を行う。	

回 (コマ)		「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	運動器の構造と機能（骨・筋肉・神経）	「整形外科とは」 整形外科の歴史 取り組みを知る 「骨について知る」	大塚嘉久

			体内における骨の役割について知る	
2	前期	運動器疾患の診察法（聞く・見る・触る・動かす）	「筋について知る」 体内における筋の役割について知る 「神経について知る」 体内における神経の役割について知る 「診察法について知る」 運動器の診察法について知る	大塚嘉久
3	前期	画像診断（レントゲン・CT・MRI・エコー）	「レントゲン・CT・MRI・エコーについて知る」 レントゲン・CT・MRI・エコー各々の特徴 長所短所を知る	大塚嘉久
4	前期	治療法（保存療法と観血的治療）	「保存療法と観血的治療」 薬物 リハビリ 手術をまなび各々の適応を知る	大塚嘉久
5	前期	外傷（骨折、脱臼、靭帯損傷など）	「骨折、脱臼、靭帯損傷」 骨折、脱臼、靭帯損傷をまなび各々の適応を知る	大塚嘉久
6	前期	脊椎疾患	「頸椎 胸椎 腰椎」 頸椎 胸椎 腰椎をまなび各々に生ずる疾患を知る 作業療法士のできる役割を学ぶ	大塚嘉久
7	前期	進行性関節疾患（変形性関節症、関節リウマチ）	「変形性関節症、関節リウマチ」 変形性関節症、関節リウマチの病態をまなび各々に対する治療法を知る	大塚嘉久
8	前期	小児整形外科疾患	「小児整形外科疾患」 小児の筋骨格系の特徴をまなび生ずる特有の疾患および治療法を知る	大塚嘉久
9	前期	骨軟部腫瘍	「骨腫瘍、軟部腫瘍」 骨腫瘍、軟部腫瘍の病態をまなび各々に対する治療法を知る	大塚嘉久
10	前期	関節疾患1：上肢	「肩関節、肘関節」 肩、肘の特徴をまなび生じやすい病態およびこれに対する治療法を知る 作業療法士のできる役割を学ぶ	大塚嘉久

11	前期	関節疾患 2：下肢	「股関節、膝関節、足関節」 股、膝、足の特徴をまなび生じやすい病態 およびこれに対する治療法を知る	大塚嘉久
12	前期	手の外科、末梢神経障害	「手関節、手指関節」 手関節、手指関節の特徴をまなび生じやすい病態 およびこれに対する治療法を知る 作業療法士のできる役割を学ぶ	大塚嘉久
13	前期	高齢者に生じやすい障害 1	「骨粗鬆症」 高齢者の骨の特徴をまなび生じやすい病態 を知る	大塚嘉久
14	前期	スポーツ	スポーツで起こりやすい外傷・障害について 学び、治療法を学ぶ	大塚嘉久
15	前期	講義のまとめおよび科目修了試験	「14回の授業のまとめ」 整形外科の役割 を考える 「科目修了試験」(授業にちゃんと参加すれば 試験対策は不要な内容です)	大塚嘉久
成績評価方法		筆記試験 100 点 但し 小テスト 授業への取り組み 11 回以上の出席 による点数の増減あり		
準備学習など		臨床科目が増えている時期ですので 就職活動だと思って 興味をもてる学科を見つけてください。整形外科であればうれしいですが。		

学科・年次	作業療法科 2年次
科目名	薬理学
担当者	野々垣 常正
単位数 (時間数)	1 単位 (15 時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	リハベーシック 薬理学・臨床薬理学

授業概要と目的
<p>医療従事者として医薬品に対する薬理知識の習得を目標とする。</p> <p>まず総論で、薬理学の概要を薬物動態を通して学習する。</p> <p>各論では、それぞれの疾患に対しての薬物の薬理作用とその副作用を学習する。</p> <p>なお、薬剤師として臨床経験のある者がその経験を活かして授業を行う。</p>

回 (コマ)		「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SB0s)	担当者
1	前期	薬理学の総論を理解する 薬物の薬理作用と作用機序を理解する	薬力学と薬物動態学の違いを理解する。 受容体の機序を通して、薬物の作用を理解させる。	野々垣常正
2	前期	薬物動態学を理解する	薬物動態学を学習して、薬物の経路とそ の特徴を理解する。 小児・高齢者・妊婦の薬物療のより安全 性を理解する。	野々垣常正
3	前期	医薬品の管理について理解する。	医薬品を扱うときに必要な法律を学び、 薬物療法を行う際の安全性と有効性の理 解を深める。	野々垣常正
4	前期	自律神経作用薬を理解する。 体性神経作用薬を理解する。	交感神経系作用薬、および抗交感神経系 の薬理作用を学ぶ。 副交感神経系作用薬、および抗交感神経 系薬理作用薬を学ぶ。 筋肉弛緩薬、局所麻酔薬を学ぶ。	野々垣常正
5	前期	中枢神経系作用薬を理解する。 循環器系作用薬を理解する。	全身麻酔薬、催眠薬、向精神薬の薬理作 用とその症状について学ぶ。 麻薬鎮痛薬、抗てんかん薬、抗パーキン ソン症候群薬理作用とその症状、副作用 を学ぶ。 高血圧、心不全、狭心症、不整脈の病態 生理と薬物治療の薬理作用、副作用を学 ぶ。	野々垣常正
6	前期	輸液製剤・腎臓作用薬を理解する。 呼吸器系作用薬、消化器系、ホルモン系 製剤理解する。	利尿薬を中心にその機序とその薬理作 用、副作用を学ぶ。 喘息治療薬、胃潰瘍治療薬、糖尿病治療 の薬理作用、ステロイド薬について学ぶ。	野々垣常正
7	前期	抗菌薬、抗癌剤、消毒薬、ビタミン剤に ついて理解する。	感染症を理解して、その治療薬をまなぶ。 抗癌剤の作用とその副作用を学ぶ。	野々垣常正
8	前期	期末テスト、まとめ		野々垣常正
成績評価方法		講義時間が十分ではないため、途中での確認試験は無理である。そのため、期末試験の成績評価で 行う。試験範囲は、解説できた範囲とする。		
準備学習など		毎回前回の復習を行うので、復習の内容がどれだけ分かっているか、また、不足しているところは、 自宅等で早めに理解を進めるようにすること。		

留意事項	Power point を使用し、豊富な図で解説するので、教科書と併せて学習に役立てて欲しい。
------	---

学科・年次	作業療法科 2年
科目名	社会保障制度論
担当者	葛谷桂司
単位数（時間数）	2 単位（30 時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	教科書 中央法規 社会保障入門 中央法規 社会保障の手引

授業概要と目的	
<p>職業リハビリテーション（就労支援）の業務において障害者、生活困窮者等社会的弱者のカウンセリング、社会保障制度の情報提供、助言、活用の提案、実践を行っている現場職員が担当する。社会保障制度とは、1. 医療保険、年金保険を代表とする保険制度 2. 児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉等で周知されている社会福祉制度 3. 疾病予防、食糧・水の安全の確保、生活環境の衛生保全を目的とした公衆衛生と大きく分類されている。これらの法が単独で成立しているのではなく、「人が生まれてから、天寿を全うするまで」の間の全てのライフサイクルに関わってくる。本講義では医療機関、福祉施設等の専門職として各法制度の理解、活用ができること。卒業後、医療・福祉各機関で活躍のために必要な知識を習得することで実践に結び付けたい。現行の社会保障制度を理解することにより 1. 対象者へ質の高いサービスを提供するために制度を理解する。2. 所属する医療・福祉の現場で提供するサービスは社会保障に関する法、社会福祉に関する法によって制定されていることを理解する。3. 各法は独立した法でなく、関連していることを理解し活用できるようにする。4. 学生自身が社会人、家庭人として、各々の実生活に関係している制度、義務、権利を理解し、卒業後、社会人として、各法の遵守することも目的とする。</p>	

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	<p>「我が国の社会保障制度の概要」 社会保障入門目次 「総論 I、II」 一般目標 社会保障制度の種類を理解する。</p>	<p>「我が国の社会保障制度の概要」 到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 社会保険制度の種類を挙げるができる。 ② 現代の国民生活と日本の社会保障制度の歴史を説明できる。 ③ 少子高齢化の進む日本社会で地域社会の在り方、労働の形態の変化を説明できる。 ④ 社会保障制度の変化を説明できる。 ⑤ 新しく設立された省庁と法の内容を説明できる。 	葛谷桂司

			<p>⑥ 社会福祉制度における支援の種類を挙げることができる。</p> <p>⑦ 諸外国の社会保障の現状を説明できる。</p>	
2	前期	<p>「医療保険制度」</p> <p>社会保障入門目次 各論Ⅱ「保健医療」</p> <p>一般目標</p> <p>① 医療保険制度の仕組みを理解する。</p> <p>② 医療保険制度の種類を理解する。</p>	<p>「医療保険制度」</p> <p>到達目標</p> <p>① 健康保険制度の加入要件について説明できる。</p> <p>② 健康保険、国民健康保険の違いを説明できる。</p> <p>③ 健康保険制度の保険料納付、給付に関する内容を説明できる。</p> <p>④ 国民健康保険制度の加入要件について説明できる。</p> <p>⑤ 国民健康保険の制度の保険料納付、給付について説明できる。</p>	葛谷桂司
3	前期	<p>所得保障制度</p> <p>「年金制度」と「雇用保険制度と労働者再災害補償保険制度」</p> <p>社会保障入門 目次 各論Ⅲ「年金・労働保険」</p> <p>一般目標</p> <p>① 年金制度の仕組みを理解する。</p> <p>② 国民年金、厚生年金の構成を理解する。</p> <p>「雇用保険制度と労働者災害補償保険制度」</p> <p>社会保障入門 目次「各論Ⅲ 年金・労働保険」</p> <p>一般目標</p> <p>① 雇用保険制度の目的を理解する。</p> <p>② 雇用保険制度の内容を理解する。</p> <p>③ 労働者災害補償保険の目的を理解する。</p> <p>労働者災害補償保険の内容を理解する。</p>	<p>「年金制度」</p> <p>到達目標</p> <p>① 年金制度の目的を説明できる。</p> <p>② 国民年金、厚生年金の加入要件、納付について説明できる。</p> <p>③ 年金の受給資格について説明できる。</p> <p>④ 国民年金、厚生年金の給付の種類を挙げることができる。</p> <p>「雇用保険制度と労働者災害補償保険制度」</p> <p>到達目標</p> <p>① 雇用保険制度の目的を説明できる。</p> <p>② 雇用保険の加入要件、事業主の義務を説明できる。</p> <p>③ 雇用保険加入労働者の権利、失業給付等の給付要件、給付の種類・内容を説明できる。</p> <p>④ 労働者災害補償保険の目的を説明できる。</p> <p>⑤ 被災者に対する給付の種類を説明できる。</p> <p>認定を受けた者の社会復帰に関する内容を説明できる。</p>	葛谷桂司

4	前期	<p>「児童・ひとり親家庭の福祉」Ⅰ 「社会保障入門」 総論⑨～⑭各論 社会福祉 「社会保障の手引」 目次 「児童の福祉」 一般目標</p> <p>① 児童福祉法で保障されている児童の権利に対しての行政サービスの概要を紹介、保護者のいない児童の自立に活用できるサービス、児童虐待防止に関わる内容を理解する。</p> <p>④ ② 子ども・子育て支援制度の概要を理解する。</p>	<p>「児童・ひとり親家庭の福祉」Ⅰ 到達目標</p> <p>① 児童福祉法の目的を説明できる。 ② 児童の種類を挙げるができる。 ③ 児童相談所をはじめとする機関の役割を説明できる。 ④ 社会的養護の内容を説明できる。 ⑤ 子ども・子育て支援制度の概要を説明できる。 ⑥ 児童福祉施設の種類・支援内容を挙げるができる。</p>	葛谷桂司
5	前期	<p>「児童・ひとり親家庭の福祉」Ⅱ 「社会保障入門」 目次 社会福祉各論 ⑯⑰⑱ 「社会保障の手引」 「母子及び父子並びに寡婦の福祉」 一般目標</p> <p>児童を取り巻く環境のうち、家庭の形態の変化、父又は母親との離死別等によりひとり親となった家庭に対して、「母子及び父子並びに寡婦福祉法」を基に提供する福祉サービス内容理解する。</p> <p>③家族形態・就労形態等の変化に伴い、「子どもの貧困」の問題がクローズアップされている。これは別単元の「生活保護受給者・生活困窮者の支援」と関連していること。子どものみの問題ではなく、その家族に対する支援内容を理解する。</p>	<p>「児童・ひとり親家庭の福祉」Ⅱ 到達目標</p> <p>① 児童虐待に関する定義・責務を説明できる。 ② ひとり親家庭の定義、ひとり親家庭への支援について説明できる。 ③ 児童手当等の経済支援を挙げるができる。</p>	葛谷桂司
6	前期	<p>「母子保健制度」 「社会保障入門」各論 社会福祉 ⑮ 「社会保障の手引」母子保健 一般目標</p> <p>①母子保健法の目的を理解する。</p>	<p>「母子保健制度」 到達目標</p> <p>① 母子健康手帳の申請・交付の内容を説明できる。 ② 訪問指導の内容を説明できる。</p>	葛谷桂司

		<p>②生まれる前と生まれた直後の児童および母親の健康のため、保健指導・健康診査・医療サービスを行う制度の内容を理解する。</p> <p>乳児を新生児、未熟児、低体重児で分類し、サービス提供を行っていることを理解する。</p>	<p>③ 妊産婦の訪問指導、未熟児の訪問指導、未熟児の養育医療について説明できる。</p> <p>④ 未熟児の基準を説明できる。</p> <p>⑤ 1歳6か月児健康診査、3歳児健康診査の内容、事後指導について説明できる。</p> <p>⑥ 妊産婦及び乳幼児健康診査について説明できる。</p> <p>⑦ 妊産婦高血圧症候群等の療育援護について説明できる。</p> <p>⑧ B型肝炎母子感染事業の内容を説明できる。</p> <p>⑨ 先天性代謝異常等検査事業の内容を説明できる。</p> <p>マタニティマークをとおした「妊産婦にやさしい環境づくり」の推進について説明できる。</p>	
7	前期	<p>「生活保護制度と生活困窮者の支援」「社会保障入門」目次各論社会福祉①～③「社会保障の手引」生活保護、生活困窮者等の支援</p> <p>一般目標</p> <p>① 生活保護制度の法的根拠を理解する。</p> <p>② 生活保護制度の内容を理解する。</p> <p>③ 生活困窮者自立支援法の内容を理解する。</p> <p>④ 婦人保護事業の内容を理解する。</p> <p>⑤ 災害救助法の内容を理解する。</p>	<p>「生活保護制度と生活困窮者の支援」到達目標</p> <p>① 生活保護法の法的根拠を説明できる。</p> <p>② 最低生活保障と自立助長を説明できる。</p> <p>③ 生活保護の基本原則を説明できる。</p> <p>④ 生活保護の基本原則を説明できる。</p> <p>⑤ 生活保護の種類を挙げることができる。</p> <p>⑥ 保護の実施機関と保護の実施について説明できる。</p> <p>⑦ 被保護者の責務を説明できる。</p> <p>⑧ 不正受給、不適正受給対策について説明できる。</p> <p>⑨ ワークフェアとソーシャルインクルージョンについて説明できる。</p> <p>⑩ 生活保護法に規定されている保護施設</p>	葛谷桂司

			<p>の種類とサービスの内容を説明できる。</p> <p>⑪ 生活困窮者自立支援法の概要を説明できる。</p> <p>⑫ 生活困窮者自立支援法に規定されている支援事業の内容を説明できる。</p> <p>⑬ 婦人保護事業の実施機関、実施主体を説明できる。</p> <p>⑭ 災害救助法の目的を説明できる。</p> <p>⑮ 災害救助の種類を説明できる。</p> <p>⑯ 災害救助法に規定されている強制権を説明できる。</p> <p>日本赤十字社の役割を説明できる。</p>	
8	前期	<p>「障害者（児）の保健福祉Ⅰ」</p> <p>「社会保障入門」各論 社会福祉 ⑱～㉔</p> <p>「社会保障の手引」「障害者の保健福祉」</p> <p>一般目標</p> <p>① 障害者基本法の内容を理解する。</p> <p>② 障害者差別に関する規定を理解する。</p> <p>③ 障害の法規定を理解する。</p> <p>④ 障害者（児）支援に関する行政機関のサービス提供の内容を理解する。</p> <p>⑤ 障害児の保健福祉について理解する。</p>	<p>「障害者（児）の保健福祉Ⅰ」</p> <p>到達目標</p> <p>① 障害者基本法の概要を説明できる。</p> <p>② 差別禁止に関する内容を説明できる。</p> <p>③ 障害種類（身体障害、知的障害、精神障害、発達障害）を説明できる。</p> <p>④ 障害認定と障害者手帳の申請から交付の流れを説明できる。</p> <p>⑤ 身体障害者更生相談所の業務を説明できる。</p> <p>⑥ 知的障害者更生相談所の業務の内容を説明できる。</p> <p>⑦ 精神保健福祉センターの業務の内容を説明できる。</p> <p>⑧ 児童相談所の障害児に対する業務の内容を説明できる。</p> <p>障害児施設の種類を説明できる。</p>	葛谷桂司
9	前期	<p>「障害者（児）の保健福祉Ⅱ」</p> <p>「社会保障入門」各論 社会福祉 ⑱～㉔</p> <p>「社会保障の手引」「障害者の保健福祉」</p> <p>一般目標</p> <p>① 「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援する法律」（以下障害者総合支援法）</p>	<p>「障害者（児）の保健福祉Ⅱ」</p> <p>到達目標</p> <p>① 「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援する法律」（以下障害者総合支援法）の目的、理念を説明できる。</p> <p>② 障害者総合支援法に規定されている行政の役割を説明できる。</p> <p>③ 障害者総合支援法に規定されているサービス受給のための申請から認定の流</p>	葛谷桂司

		<p>法)の内容を理解する。</p> <p>② 障害者総合支援法に基づく支援内容を理解する。</p> <p>障害者虐待の問題を理解する。</p>	<p>れを説明できる。</p> <p>④ 障害者総合支援法に規定されている給付サービスの内容を説明できる。</p> <p>⑤ 障害者虐待の内容を説明できる。</p>	
10	前期	<p>「障害者（児）の保健福祉Ⅲ」</p> <p>「社会保障入門」各論 社会福祉 ⑭～⑳</p> <p>「社会保障の手引」「障害者の保健福祉」</p> <p>① 発達障害者支援法の内容を理解する。</p> <p>③ 医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律の概要、詳細を理解する。</p>	<p>「障害者（児）の保健福祉Ⅲ」</p> <p>到達目標</p> <p>① 発達障害者支援法の主旨を説明できる。</p> <p>① 発達障害の定義を説明できる。</p> <p>② 発達障害者支援法の基本理念を説明できる。</p> <p>③ 発達障害者支援法に規定されている支援の内容を説明できる。</p> <p>④ 発達障害者支援センターの実施主体、利用者について説明できる。</p> <p>⑤ 発達障害者支援センターの事業の内容を説明できる。</p> <p>⑥ 発達障害者支援センター内の職員配置について説明できる。</p> <p>⑦ 医療的ケア児と医療的ケアの説明ができる。</p> <p>⑧ 医療的ケア児とその家族に対する国、公共団体、保育所、学校の義務を説明できる</p> <p>⑥ 医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する施策を説明できる。</p>	葛谷桂司
11	前期	<p>「高齢者の保健福祉Ⅰ」</p> <p>「社会保障入門」各論 社会福祉 ④～⑧</p> <p>「社会保障の手引」 高齢者の保健福祉</p> <p>一般目標</p> <p>① 高齢者福祉の歴史の概要を理解する。</p> <p>② 介護保険の概要を理解する。</p> <p>③ 介護保険における支援対象者、提供サービスについて理解する</p>	<p>「高齢者の保健福祉Ⅰ」</p> <p>到達目標</p> <p>① 現行の介護保険法成立までの変遷を説明できる。</p> <p>② 介護保険法創設について説明できる。</p> <p>③ 介護保険法の目的を説明できる。</p> <p>④ 介護保険法に規定されている保険者・被保険者について説明できる。</p> <p>⑤ 介護保険法に規定されている資格取得、喪失について説明できる。</p> <p>⑥ 保険事故について説明できる。</p> <p>⑦ 要介護状態、要支援状態認定について</p>	葛谷桂司

		<p>④ 高齢者の権利擁護について理解する。 高齢者の虐待とその防止について理解する。</p>	<p>説明できる。</p> <p>⑧ 要介護、要支援認定について説明できる。</p> <p>⑨ 介護保険料の徴収について説明できる。</p> <p>⑩ 介護サービス提供までの流れを説明できる。</p> <p>⑪ 介護給付の内容を名称ごとに説明できる。</p> <p>⑫ 権利擁護の日常生活自立支援事業の内容を説明できる。</p> <p>⑬ 高齢者虐待について説明できる。</p> <p>⑭ 高齢者虐待の種類、法的措置を説明できる。</p> <p>介護保険法に規定されている高齢者福祉施設の種類の、内容を説明できる。</p>	
12	前期	<p>「高齢者の保健福祉Ⅱ」 「社会保障入門」各論 社会福祉 ④～⑧ 「社会保障の手引」 高齢者の保健福祉 一般目標 ① 介護予防の内容を理解する。 ② 介護予防サービスの種類を理解する。 ③ 訪問型サービスの内容を理解する。 ④ 通所型サービスの内容を理解する。 ⑤ 一般介護予防事業の目的を理解する。 一般介護予防事業の種類、内容を理解する。</p>	<p>「高齢者の保健福祉Ⅱ」 到達目標 ① 介護予防の目的を説明できる。 ② 介護予防サービスの種類を説明できる。 ③ 訪問型サービスの内容を説明できる。 ④ 通所型サービスの内容を説明できる。 ⑤ 一般介護予防事業の目的を説明できる。 ⑥ 一般介護予防事業の種類、内容を説明できる。</p>	葛谷桂司
13	前期	<p>「高齢者の保健福祉Ⅲ」 一般目標 「社会保障入門」各論 社会福祉 ④～⑧ 「社会保障の手引」 高齢者の保健福祉</p>	<p>「高齢者の保健福祉Ⅲ」 到達目標 ① 認知症施策の流れを説明できる。 ② 新オレンジプランの基本的な考えを説明できる。 ③ 新オレンジプランの「七つの柱」を説</p>	葛谷桂司

		<ul style="list-style-type: none"> ① 認知症施策の内容を理解する。 ② 新オレンジプランの内容を理解する。 ⑥ 共生型サービスの内容を理解する。 	<p>明できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ⑦ 共生型サービスの創設の目的、介護保険サービスと障害者総合支援法との関連を説明できる。 	
14	前期	<p>「特殊疾病対策」 「社会保障入門」各論Ⅱ 保健医療⑩～⑭ 「社会保障の手引」「特殊疾病対策」 一般目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 地域保健活動で役割を担っている保健士の活動内容を理解する。 ① 日本国内で発生する感染症対策の理解をする。 ② 難病患者・その家族に対する支援について理解する。 ③ 特殊疾病対策における行政の責務を理解する。 	<p>「特殊疾病対策」 到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 保健士の活動内容を説明できる。 ① 感染症の予防及び感染症患者に対する医療に関する法律の目的を説明できる。 ② 感染症の種類を説明できる。 ③ 予防対策に関して、行政の責務を説明できる。 ④ 発生から対策の流れを説明できる。 ⑤ 都道府県知事の権限を説明できる。 ⑥ 感染症患者の人権の尊重について説明できる。 ⑦ 結核対策の目的、実施主体、定期健康診断について説明できる。 ⑧ 難病対策の難病の定義を説明できる。 ⑨ 難病対策の目的を説明できる。 ⑩ 特定医療費の支給内容を説明できる。 ⑪ 難病患者に対する支援策の目的、実施主体を説明できる。 ⑫ 難病相談支援センター事業の目的、支援内容を説明できる。 ⑬ 特定疾患治療研究事業の内容を説明できる。 ⑭ 特定疾患治療研究事業の対象疾患名を説明できる。 ④ 治療と給付に関する説明ができる。 	葛谷桂司
15	前期	科目試験	科目試験	葛谷桂司
成績評価方法		科目試験		
準備学習など		<p>1. 講義の進め方について テキストのページの順序では講義は進めません。シラバスで必ず、確認して下さい。</p>		

	<p>2. 準備について</p> <p>次のことを準備してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中央法規 社会保障入門をシラバスで確認して予習すること。 2. 中央法規 社会保障の手引は付属のインデックスを貼って、準備しておくこと。 3. 「社会保障入門」で基本を学習し、応用として「社会保障の手引」で各法の詳細を学ぶ形式で講義を進めます。 4. 配布する「今日の復習」は必ず翌週講義までに解いておくこと。 <p>必ず問題を解いておくようにしてください。レポート課題を1度出します。</p> <p>初めて法律用語に触れる方もいると思います。現場で活躍するために必要な内容です。そのための準備として一緒に取り組みましょう。</p> <p>必ず問題を解いておくようにしてください。レポートについては、1回課題を出す予定です。</p>
留意事項	

学科・年次	作業療法科 2年次
科目名	作業療法概論Ⅱ
担当者	山口冨香 木村映美
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	サブノート、必要に応じてパソコン

授業概要と目的	
<p>精神障害分野では、デイリーノート・SOAP・プロセスレコードの作成が出来るようにしていく。一般的症例報告の書き方を大項目ごとに進めていき、学生個人の報告書を教員で採点していく。最終的には実習で使用する報告書の作成を提出する。実習で困らないように指導者とのやり取りも想定して取り組む。</p> <p>身体障害分野では、一般的症例報告の書き方を大項目ごとに進めていき、学生個人の作成を教員で採点していく。最終的には一般的症例報告書の作成ができ、実習で使用する報告書の作成と発表まで行う。</p> <p>なお、作業療法士として、病院等で臨床経験のあるものが授業を担当する。</p>	

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	後期	<p>「精神障害分野の症例報告書作成方法」</p> <p>・精神障害領域における症例報告書作成方法の流れを理解する</p>	<p>・症例報告の心得を学び、実習で提出する記録について学ぶ</p> <p>・一般的な症例報告の流れを項目ごとに参考資料を見ながら内容を知る</p>	木村映美

2	後期	「身体障害分野の症例報告書作成方法」 ・身体障害領域における症例報告書作成方法の流れを理解する	「身体障害分野の症例報告書作成方法」 ・身体障害領域におけるレポート作成の項目を述べる ・身体障害領域の症例報告について、参考資料を見せて流れを知る ・検討症例の情報を提示し、知らない言葉を調べる	山口冨香
3	後期	「デイリーノート」 「SOAP」 ・それぞれの記入の仕方を理解する	・デイリーノートに記入する項目を理解し、実際作成する ・SOAPの頭文字を理解する ・客観的と主観的の区別ができる	木村映美
4	後期	「評価項目の列挙」 検討症例に必要な評価項目を列挙できる 評価項目を列挙する根拠を述べる ことができる	「評価項目の列挙」 ・提示された情報から問題とされるADL障害を抜粋する ・ADL障害の原因となる機能障害を推論する ・推論した項目を立証するための項目を教科書から調べる	山口冨香
5	後期	「プロセスレコード」 ・プロセスレコードの必要性を学び、記入の仕方を理解する	・例題を2人組になり読み上げる ・実際にあった自分の出来事を2人で会話をしてSOAPを作成する	木村映美
6	後期	「精神障害分野の評価のまとめ」 ・評価のまとめを理解する	・心身の基本的機能 ・日常生活能力 ・作業遂行能力 ・対人関係能力 の4つに分けて客観的情報を分類できる ・教員がチェックして出来るまで提出をする	木村映美
7	後期	「評価のまとめ」	「評価のまとめ」 ・評価のまとめに記載する項目を述べる ・各評価結果の情報を簡潔に記述することができる ・必要な情報を選択することができる ・客観的な情報のみを記述することができる	山口冨香
8	後期	「精神障害分野のICF」 ・評価のまとめからICFに分類する	・利点と問題点を箇条書きにしてICFへ分類し、問題の焦点化をする ・教員がチェックして出来るまで提出する	木村映美

9	後期	「統合と解釈」 ・統合と解釈の流れを理解する ・統合と解釈の作成方法を理解する	「統合と解釈」 ・統合と解釈の意味を説明できる ・問題点となる ADL 動作を列挙することができる ・動作障害と検査結果を関連付けることができる ・予後予測をすることができる ・原因を同定することができる	山口冴香
10	後期	「精神障害分野の統合と解釈」 ・統合と解釈の内容を理解し、作成できる	・評価のまとめから自分の解釈を入れていき作成する ・問題点の焦点化を取り入れて統合する ・解釈の方向性と流れの資料を参考にして作成する	木村映美
11	後期	「精神障害分野の実習での症例報告書」 ・実際に臨床実習で提出する書式にて作成できる	・評価のまとめ、ICF、1 番気になる問題点、治療計画、目標を出して実際に作成する	木村映美
12	後期	「短期・長期目標」 短期・長期目標の作成方法を習得する	「短期・長期目標」 ・目標設定とは何か説明できる ・長期目標を列挙することができる ・短期目標を列挙することができる ・長期目標と短期目標の関連付けができる	山口冴香
13	後期	「治療プログラム」 治療プログラムを立案することができる 根拠のある治療プログラムが立案できる	「治療プログラム」 ・治療プログラム案を列挙することができる ・治療プログラムに対して具体的な方法を挙げることができる ・適切な段階づけができる ・治療方針に対して文献等で調べる ・治療プログラムを症例の状態や全体像に沿った工夫がなされている	山口冴香
14	後期	「症例報告書作成」 症例報告書を作成することができる 症例報告書の作成方法を理解する	「症例報告書作成」 ・症例報告書に必要な情報を選択することができる ・症例報告書の項目に沿って列挙することができる ・1 つの活動制限から統合と解釈を述べる ことができる	山口冴香

15	後期	「症例報告書 発表」 症例報告書の発表する方法を習得する	「症例報告書 発表」 ・7分間の時間を守り発表できる ・質疑応答ができる ・発表の着目点を伝えることができる ・明瞭な声量で伝えることができる	山口冨香
成績評価方法		出席は2/3以上の出席をもって試験の受験を可とする。 身障分野の評価方法は所定のルーブリック評価法を使用し採点する（50%） 精神分野の評価方法は各課題の内容・提出期限で採点する（50%） 合計100点		
準備学習など		特になし		
留意事項		特になし		

学科・年次	作業療法科 2年次
科目名	基礎作業学各論Ⅱ
担当者	田中敏彦
単位数（時間数）	2単位（60時間）
学習方法	実習
教科書・参考書	

授業概要と目的
1年次の基礎作業学各論Ⅰで学んだ技法を基礎として、基礎作業学各論Ⅱでは「オリジナル」の作品作りを身につける。即現場で創作活動として使える技法を身につけることを目的とし、活動の身体の動き、心理的側面に与える影響を理解する。なお、作業療法士として、病院等で臨床経験のあるものが授業を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	「紙芝居作成・発表」 ・自分の生まれてから、現在に至るまでの軌跡を絵と説明文で表現し、他者に伝えることで自己理解・他者理解の重要性を理解する。	「出生から現在までを振り返る。」 ・自分の出生時、幼少時の情報収集が出来る。 ・小学校～高校（もしくは社会人）までの印象的な出来事を列挙できる。 ・それらを絵で表現し、説明を加えて反すことが出来る。	田中敏彦
2				
3				
4				
5	通年			
6				
7	通年			

8				
9	通年	「塗り貼り絵作成」 ・「ぬり絵」と「貼り絵」という異なる活動の工程を合わせることで同時進行できることを理解する。	「ぬり絵」と「貼り絵」の同時作業 ・染色道具（絵具・色鉛筆・クレヨンなど）を選択し、彩色が出来る。 ・各パーツを正確に切り出し、組み合わせることが出来る。	田中敏彦
10				
11	通年			
12				
13	通年	「貼り絵（トラウトとハコフグ）作成」 ・フォーマット化された活動を行うことで、難易度の段階付けを理解する。	フォーマット化された貼り絵作成 ・説明書に記載されている通りの色で貼り付けることが出来る。 ・各パーツを正確に切り出し、組み合わせることが出来る。 ・魚以外の背景部分を、同様の方法で作成できる。	田中敏彦
14				
15	通年			
16				
17	通年			
18				
19	通年	「割りばし額作成」 ・活動の中に含まれている粗大な運動と、巧緻な運動を理解する。 ・1つの土台での作成方法を体験することで、土台の大きさを変化させる応用的な知識を知る。	「粗大運動と巧緻運動」 ・材料となる土台を採寸通りに切り出すことが出来る。 ・土台に決められた本数の割り箸を貼り付けることができる。 ・割りばしの余分部分を鋸で切り落とすことが出来る。 ・正確にパーツの接着が出来る。	田中敏彦
20				
21	通年			
22				
23	通年			
24				
25	通年	「スイーツデコレーション作成」 ・紙粘土の素材の特徴と手指の動き（把握・つまみ）を理解する。 ・短時間で作成できるアクティビティを知ることで、達成感の重要性を理解する。	「手指の巧緻動作」 ・道具を使用して、アイスクリームの形を作成できる。 ・作成時に使用される身体の部分を理解できる。	田中敏彦
26				
27	通年	「デコパージュ作成」 ・ケマージュ液の素材の特徴と手指の動き（把握・つまみ）を理解する。 ・短時間で作成できるアクティビティを知ることで、達成感の重要性を理解する。	「手指の巧緻動作」 ・道具を使用して石鹸デコパージュを2個作成することが出来る。 ・作成時に使用される身体の部分を理解できる。	田中敏彦
28				
29	通年	「レジンアート作成」 ・レジンの素材の特徴と手指の動	「手指の巧緻動作」 ・道具を使用し、2個の題材を使って作品	田中敏彦

30	<p>き（把握・つまみ）を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短時間で作成できるアクティビティを知ること、達成感の重要性を理解する。 	<p>を2個作成できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作成時に使用される身体の部分を理解できる。 	
成績評価方法	<p>出席は 2/3 以上の出席をもって成績評価の対象とする。</p> <p>7つの作品をすべて完成させ提出すること。</p> <p>提出状況と作品の完成度で評価する。(100点)</p>		
準備学習など			

学科・年次	作業療法科・2年次
科目名	作業療法管理学
担当者	田中 敏彦・坂上隼大・山内 太郎
単位数（時間数）	2単位（30時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	特になし 適宜講義の際に配布

授業概要と目的	
<p>講義を通してリハビリテーション、作業療法の組織体系について理解し、組織を運営していく上での必要となるリスクマネジメントや安定した運営を行うために必要となる経営管理について、学び将来現場に出て組織のために何ができるのかを考えることができる人材の育成を目指していく。また医療・福祉・介護領域（病院・施設）での役割について理解するとともに作業療法関わる診療報酬や個人情報の取り扱い、ハラスメントの種類や防止策および作業療法士のキャリア開発についても理解を深める。なお、作業療法士として、病院等で臨床経験のあるものが授業を担当する。</p>	

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「職能団体」 OT 協会と県士会の目的と活動を理解できる。	「協会と県士会の目的と役割」 OT 協会と県士会の目的と役割を説明できる。	田中敏彦
2	前期	「作業絵療法参加型実習」 作業療法参加型実習の流れを理解できる。	「見学-模倣-実施」 臨床実習における経験の方法と流れを説明することができる。	田中敏彦
3	前期	リハビリテーション・作業療法部	医療・地域における作業療法士のありかた、	坂上隼大

		門の組織運営・管理総論①	法人、組織、運営とは何かを理解する。	
4	前期	リハビリテーション・作業療法部門の組織運営・管理総論②	診療報酬制度、ハラスメントを理解する。	坂上隼大
5	前期	組織マネジメント、育成マネジメントの方法	「PDCA サイクルと OODA サイクル」 病院・施設という組織の中で自身がどのように動いていけばよいのかをフレームワークを通じて理解する。	坂上隼大
6	前期	作業療法士におけるキャリア開発①（グループワーク）	作業療法士の資格認定制度の理解。 作業療法士としてどのようなキャリアがあるのかを制度も含めて考察する。	坂上隼大
7	前期	作業療法士におけるキャリア開発②（グループワーク）	作業療法士としてどのようなキャリアがあるのかを制度も含めて考察し発表する。	坂上隼大
8	前期	リスクマネジメントについて学ぶ①	グループにて職場におけるリスクには、何があるかを考え列挙することができる。 インシデントやアクシデントとは何か答えることができる	山内太郎
9	前期	リスクマネジメントについて学ぶ②	苦情対応について、いろいろな苦情の実例を聞き、対処方法を考え発表することができる	山内太郎
10	前期	経営管理について学ぶ	経営とは何かを答えることができる 人件費率など経営に必要な用語や収益がどのような流れで、給与に代わるのかを知ることができる	山内太郎
11	前期	ティーチングとコーチングについて学ぶ①	ティーチングとは何か答えることができる コーチングとは何か答えることができる	山内太郎
12	前期	ティーチングとコーチングについて学ぶ②	理想的なティーチングとは 理想的なコーチングとはについてグループで考えることができる	山内太郎
13	前期	ティーチングとコーチングについて学ぶ③	グループで考えた理想的なティーチング、 コーチングを発表することができる①	山内太郎
14	前期	ティーチングとコーチングについて学ぶ④	グループで考えた理想的なティーチング、 コーチングを発表することができる②	山内太郎

15	前期	「まとめと試験」 本講義の概略を説明し、理解度を 確認する。	各講義の重要ポイント及び理解度について 国家試験などを利用して書面で説明でき る。	田中敏彦 山内太郎 坂上隼大
成績評価方法		本試験（筆記試験）田中 10 点+坂上 40 点+山内 50 点）にて成績評価する。合計 100 点		
準備学習など		身近にある具体的な活用例があれば気に留めておくとよい。		

学科・年次	作業療法科・2年次
科目名	老年期障害評価学
担当者	角本 裕之進 本多 亜希子
単位数（時間数）	1 単位（30 時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	・サブノート（毎回配布）

授業概要と目的
<p>作業療法士が臨床で必ず出会う「高齢者」について、様々な面からアプローチし医療的な対応のポイントを習得する。リハビリテーションを行う前に知っておかなければならない「高齢者に関する医学的知識」を整理し、そのうえで作業療法士の行う評価法に触れていく。また認知症のリハビリテーションについても作業療法士に期待される部分は大きく、必須の知識について整理し理解を深める。</p> <p>なお、作業療法士として、病院等で臨床経験のあるものが授業を担当する。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	<p>「高齢者の特徴」①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老化と加齢の違いについて理解する。 ・高齢者の精神面・身体面の特性について理解する。 	<p>「高齢者の生理的・身体的特徴」①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老化 ・循環器の加齢変化 ・呼吸器系の加齢変化 ・消化器系の加齢変化 ・腎機能の加齢変化 <p>などについて、個別・具体的な数値とともに学習し、説明できる。</p>	本多 亜希子

2	通年	<p>「高齢者の特徴」②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老化と加齢の違いについて理解する。 ・高齢者の精神面・身体面の特性について理解する。 	<p>「高齢者の生理的・身体的特徴」②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・血液および造血系の加齢変化 ・神経系の加齢変化 ・感覚機能の加齢変化 ・運動器系の加齢変化 <p>などについて、個別・具体的な数値とともに学習し、説明できる。</p>	本多 亜希子
3	通年	<p>「認知症」①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の評価方法を習得する前に、認知症に関する基本事項について学習し、理解する。 	<p>「認知症の基本」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の定義 ・原因疾患 ・治療可能な認知症 ・認知症の中核症状 ・認知症の周辺症状 ・軽度認知障害 <p>について理解し、説明できる。</p>	本多 亜希子
4	通年	<p>「認知症」②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の評価方法を習得する前に、認知症に関する基本事項について学習し、理解する。 	<p>「4大認知症」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Alzheimer型認知症 ・Lewy小体型認知症 ・前頭側頭型認知症 ・脳血管性認知症 <p>について理解し、説明できる。</p>	本多 亜希子
5	通年	<p>「認知症の評価」①</p> <p>認知症の評価方法について、知識と技術を知り、理解する。</p>	<p>「認知症の評価」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の評価方法：総論 ・HDS-R ・MMSE-J <p>について評価を実施し、理解できる。</p>	本多 亜希子
6	通年	<p>「認知症の評価」②</p> <p>認知症の評価方法について、知識と技術を知り、理解する。</p> <p>「老年期における評価 高齢者の評価方法について、知識と技術を知り、理解する。</p>	<p>「認知症の評価」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CDR ・FAST ・FAB <p>について理解し、説明できる。</p> <p>「老年期における評価」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害高齢者の日常生活自立度 ・認知症高齢者の日常生活自立度判定基準 ・興味チェックリスト <p>について理解し、説明できる</p>	本多 亜希子

7	通年	<p>老年期の評価方法①</p> <p>老年期分野で使用する高次脳機能障害に対する各評価の目的を説明することができる</p>	<p>高次脳機能評価①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ CAT ・ BIT ・ RBMT ・ BADS ・ SPTA ・ VPTA <p>・ 各評価の目的を述べることができる</p> <p>・ 各評価の説明をすることができる</p>	本多 亜希子
8	通年	<p>CT と MRI について①</p> <p>CT や MRI のメカニズムについて理解する</p>	<p>「CT とはなにか」</p> <p>CT のメカニズムを述べることができる</p> <p>CT の特徴を述べることができる</p> <p>スライドの部位を述べることができる</p>	角本 裕之進
9	通年	<p>CT と MRI について②</p> <p>CT や MRI のメカニズムについて理解する</p>	<p>「MRI とはなにか」</p> <p>MRI のメカニズムを述べることができる</p> <p>MRI の特徴を述べることができる</p> <p>各スライドの部位を述べることができる</p>	角本 裕之進
10	通年	<p>CT と MRI について③</p> <p>様々な CT、MRI 所見を理解、解釈する</p>	<p>「CT で理解すべき所見」</p> <p>CT より脳出血部位を述べることができる</p> <p>損傷部位で生じる可能性がある、障害名を答えることができる</p>	角本 裕之進
11	通年	<p>CT と MRI について④</p> <p>様々な CT、MRI 所見を理解、解釈する</p>	<p>「MRI で理解すべき所見」</p> <p>MRI より脳梗塞部位を述べることができる</p> <p>損傷部位で生じる可能性がある、障害名を答えることができる</p>	角本 裕之進
12	通年	<p>老年期の評価方法②</p> <p>老年期分野で使用する高次脳機能障害に対する各評価の目的を説明することができる</p>	<p>高次脳機能評価②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ CAT ・ BIT ・ RBMT ・ BADS ・ SPTA ・ VPTA <p>・ 各評価の目的を述べることができる</p> <p>・ 各評価の説明をすることができる</p>	本多 亜希子

13	通年	<p>老年期の評価方法③</p> <p>老年期分野で使用する高次脳機能障害に対する各評価の目的を説明することができる</p>	<p>高次脳機能評価③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ CAT ・ BIT ・ RBMT ・ BADS ・ SPTA ・ VPTA <p>を実施することができる</p>	本多 亜希子
14	通年	<p>老年期の評価方法④</p> <p>老年期分野で使用する高次脳機能障害に対する各評価を実施することができる</p>	<p>高次脳機能評価④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ CAT ・ BIT ・ RBMT ・ BADS ・ SPTA ・ VPTA <p>を実施し、結果を報告できる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各項目の結果より推論することができる ・ 各項目の結果を基に、問題点を列挙することができる 	本多 亜希子
15	通年	<p>「まとめと試験」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「高齢者の心身の変化」及び「認知症の基本」「認知症の評価」について総まとめを行い、基本用語の確認を行い、理解する。 	<p>「まとめと試験」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「高齢者の心身の変化」及び「認知症の基本」「認知症の評価」について知識を整理し、基本用語の確認を行う。また、国家試験の過去問題に触れ、どのようなことが重要事項なのか説明できる。 	本多 亜希子
成績評価方法		<p>出席点 10 点</p> <p>筆記試験 90 点</p> <p>合計 100 点</p>		
準備学習など		特になし		

学科・年次	作業療法科 2年次
科目名	身体障害評価学Ⅱ
担当者	角本 裕之進

単位数（時間数）	1 単位 （30 時間）
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	標準作業療法学 作業療法評価学

授業概要と目的
作業療法評価とは、目標を達成するための効果的な治療計画を立てるために明確な障害像を把握することであるとされ、作業療法を実施するにあたり評価は欠かすことはできない。本授業では特に身体障害領域に関する作業療法評価の習得を目的とする。なお、作業療法士として、病院等で臨床経験のあるものが授業を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「オリエンテーション」 「作業療法評価とは」 ・作業療法評価の内容を理解する ・作業療法評価の流れを理解する ・	「評価とは」 ・作業療法評価の目的を列記する ・作業療法評価時期について述べる ・各情報の種類（基本情報、医学的情報、他部門情報）を述べる ・各評価方法の種類（観察、面接、検査、測定）を述べる ・統合と解釈、治療目標、治療プログラムについて述べる	角本裕之進
2		「バイタルサインについて」 ・バイタルサインの概要を理解する ・意識レベルの評価、血圧測定技法を身につける	「バイタルサインについて」 ・バイタルサインとは何か述べる ・意識の種類について述べる ・JCS を実施する ・触診可能な動脈を触れる ・血圧を測定する	
3	前期	「ブルンストロームステージについて」 ・ブルンストローム検査技法を身につける	「ブルンストロームステージについて」 ・BRS の段階を述べる ・BRS 各レベルについて模倣できる ・屈筋共同運動と連合反応の違いを調べる ・BRS 検査を学生同士で実施する	角本裕之進
4		・脳卒中片麻痺の回復段階を理解する		
5	前期	「腱反射について」 腱反射の検査技法を身につける 腱反射の目的を理解する	「腱反射について」 ・腱反射の特徴と意義を述べる ・錐体路障害と反射弓の違いを調べる ・イエンドラシク法とは何か述べる ・打腱器の操作を熟練する ・検査における留意点を述べる	角本裕之進

			<ul style="list-style-type: none"> ・検査する筋肉を列記することができる ・結果の記録方法を説明する 	
6		「病的反射について」 病的反射の検査技法を身につける 病的反射の目的を理解する	「病的反射について」 <ul style="list-style-type: none"> ・腱反射の特徴と意義を述べる ・病的反射の項目を述べる ・病的反射の検査方法を模倣する ・結果の記録方法を説明する 	角本裕之進
7		「立ち直り反応について」 立ち直り反応の検査技法を身につける	「立ち直り反応について」 <ul style="list-style-type: none"> ・反射と反応の違いについて述べる ・立ち直り反応の種類について述べる ・立ち直り反応について模倣する ・立ち直り反応の検査を実施する 	角本裕之進
8	前期	「平衡反応について」 平衡反応の検査技法を身につける	「平衡反応について」 <ul style="list-style-type: none"> ・重心移動の大きさによる姿勢制御の戦略について述べる ・保護伸展反応を模倣する ・保護伸展反応の検査を実施する ・FBSを実施する ・FRTを実施する 	角本裕之進
9	前期	「感覚検査について」 <ul style="list-style-type: none"> ・感覚検査の検査技法を身につける ・感覚に関する伝導路を理解する 	「感覚検査について」 <ul style="list-style-type: none"> ・感覚と知覚の違いについて述べる ・感覚評価の意義を列記する ・感覚神経の伝導路を記述する ・感覚検査の判定基準を述べる ・各感覚検査を模倣・実施する ・検査器具の名称を述べる 	角本裕之進
10				
11	前期	「STEFについて」 <ul style="list-style-type: none"> ・STEFの検査技法を身につける 	「STEFについて」 <ul style="list-style-type: none"> ・実施に関する注意点を述べる ・検査をする点の観察要点を述べる ・検査の説明ができる ・各項目の模倣・実施する 	角本裕之進
12		「協調性検査について」 協調性の検査技法を身につける	「協調性検査について」 <ul style="list-style-type: none"> ・協調性検査の意義と目的を述べる ・失調症の種類を述べる ・失調症の種類を模倣する ・協調性検査を模倣・実施する 	角本裕之進

13	前期	「筋緊張検査について」 ・筋緊張検査の技法を身につける ・筋緊張に関わる用語を理解する	「筋緊張検査について」 ・筋緊張検査の意義と目的を述べる ・筋緊張亢進と低下の違いを述べる ・痙縮と固縮の違いを説明できる ・錐体路障害と錐体外路障害の違いを説明できる ・主観的検査で視診することができる ・MAS テストを模倣・実施する ・ADL の影響を述べる	角本裕之進
14		「脳神経検査について」 ・脳神経検査の技法を身につける ・	「脳神経検査について」 ・脳神経検査の意義と目的を述べる ・12 神経の名称を述べる ・各検査方法を模倣・実施する	角本裕之進
15	前期	「まとめと試験」 身体障害領域に関する作業療法 評価を理解する	「まとめと試験」 ・身体障害領域における作業療法評価を実施できる ・各評価の検査目的を述べる ・正しい方法と、安全に配慮して実施する	角本裕之進
成績評価方法		出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 実技試験（100 点）を実施し、60 点以上を合格とする。 評価方法は所定のルーブリック評価法を使用し採点する		
準備学習など		脳卒中に関する知識を習得しておく 解剖・生理学を復習しておくこと		

学科・年次	作業療法科・2 年次
科目名	精神障害治療学 I
担当者	木村映美
単位数（時間数）	2 単位（60 時間）
学習方法	グループワークと講義
教科書・参考書	・サブノート（毎回配布） ・精神疾患の理解と精神科作業療法 第 3 版 中央法規

授業概要と目的

精神科における各疾患の理解とともに、それぞれの疾患における作業療法の展開を理解する。
 基本的な作業療法プログラム・援助方法を立案できる知識と技術を習得し、実際の臨床現場でのエピソードも交え精神科の治療を理解することが出来る。なお、作業療法士として、病院等で臨床経験のあるものが授業を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「精神機能の基礎知識」① ・精神機能の構造を知る	・意識（質的、量的） ・知能（IQ） についてサブノート・教科書・国試過去問 を使用して理解を深める	木村映美
2	前期	「精神機能の基礎知識」② ・精神機能の構造を知る	・思考（思考体験・内容・思路の異常） ・知覚（視覚・聴覚・臭覚・味覚・触覚） についてサブノート・教科書・国試過去問 を使用して理解を深める	木村映美
3	前期	「精神機能の基礎知識」③ ・精神機能の構造を知る	・感情（情動、気分、情性、その他） ・意欲（亢進、減退） についてサブノート・教科書・国試過去問 を使用して理解を深める	木村映美
4	前期	「精神機能の基礎知識」④ ・精神機能の構造を知る	・行動（程度、内容） ・記憶（記銘、保持、追想、再認、その他） についてサブノート・教科書・国試過去問 を使用して理解を深める	木村映美
5	前期	「精神機能の基礎知識」⑤ ・精神機能の構造を知る	・作業療法士の立場、連携 臨床現場での内容と合わせて理解を深める	木村映美
6	前期	「精神機能の基礎知識」⑥ ・精神機能の構造を知る	・OT 評価の流れ 臨床現場での内容と合わせて理解を深める	木村映美
7	前期	「統合失調症 急性期①」 ・状態像の理解 ・生じやすい問題 ・行われる治療 を知る	・陽性症状を基礎知識で学んだ語句と照らし合わせ理解を深める ・実際の現場の体験を踏まえて想像しやすくなる ・OTや多職種の治療を知る	木村映美

8	前期	「統合失調症 急性期②」 ・作業活動の選択 ・環境調整 ・作業療法士の対応技術を理解する	・基本的な作業活動の内容を学び、国試過去問を解きながら理解を深める ・環境の刺激内容を知り、国試過去問を解きながら理解を深める ・妄想、幻聴の対応や声掛けの技術を知り、国試過去問を解きながら理解を深める	木村映美
9	前期	「統合失調症 回復期①」 ・状態像の理解 ・生じやすい問題 ・行われる治療を知る	・陰性症状を基礎知識で学んだ語句と照らし合わせ理解を深める ・長期入院の問題点を理解する ・薬物療法と退院に向けたリハビリテーションを学ぶ	木村映美
10	前期	「統合失調症 回復期②」 ・作業療法の視点 ・OTの実践と対応技術	・問題点より利点を活用し、OTとの関係づくりの大切さを知る	木村映美
11	前期	「統合失調症 回復期③」 ・社会復帰間近の就労支援を理解する	・退院後の生活を想像できるプログラム立案を、国試過去問を解きながら理解を深める	木村映美
12	前期	「気分障害 ①」 ・気分障害を理解する	・単極性うつ病、双極性障害、単極性躁病の違いを理解する（グラフを用いる） ・うつ病と躁病の特徴を基礎知識で学んだ語句と合わせて理解を深める	木村映美
13	前期	「気分障害 ②」 ・経過と予後を理解する ・うつ病、躁病の治療法を知る	・自殺の危険性の時期や再発の可能性を知る ・休養の必要性、薬物療法、精神療法を知る	木村映美
14	前期	「気分障害 ③」 ・うつ病の急性期の作業療法を知る	・うつ病の急性期の状態像を知ることによって作業の選択のポイントを理解出来る ・国試過去問を解きながら理解を深める	木村映美
15	前期	「気分障害 ④」 ・うつ病の回復期の作業療法を知る	・うつ病の回復期の状態像を知ることによって作業の選択のポイントを理解出来る ・国試過去問を解きながら理解を深める	木村映美
16	前期	「気分障害 ⑤」 ・躁病の急性期と回復期の作業療法を知る	・躁病の急性期と回復期の状態像を知ることによって作業の選択ポイントを理解出来る ・国試過去問を解きながら理解を深める	木村映美
17	前期	「神経症」 ・「パニック障害」の特徴と作業療法を知る	・パニック障害の症状を知り、治療法を知る ・作業療法の展開を学んだ上で、国試過去	木村映美

			問を解きながら理解を深める	
18	前期	「神経症」 ・「解離性（転換性）障害」の特徴と作業療法を知る	・解離性と転換性の症状を知る ・経過、予後、治療法を学び作業療法の展開やかかわり方を理解する ・国試過去問を解きながら理解を深める	木村映美
19	前期	「神経症」 ・「強迫性障害①」の特徴を知る	・強迫性障害の概念を知り、症状を理解する	木村映美
20	前期	「神経症」 ・「強迫性障害②」の作業療法を知る	・疫学や治療法を学ぶ ・作業療法での問題点を理解し作業活動の選択を学ぶ ・国試過去問を解きながら理解を深める	木村映美
21	前期	「境界性パーソナリティー障害①」 ・分類や特徴を理解する	・境界性パーソナリティーの症状や治療法を学ぶ	木村映美
22	前期	「境界性パーソナリティー障害②」 ・作業療法の治療法やかかわりを理解する	・作業療法士のかかわりで生じる問題を例文と照らし合わせて理解する ・個別での OT と集団での OT を国試過去問を解きながら理解を深める	木村映美
23	前期	「摂食障害①」 ・摂食障害の症状と病因を理解する	・摂食障害にみられる特徴を国試の過去問を解きながら理解を深める	木村映美
24	前期	「摂食障害②」 ・経過、予後、治療法を理解する ・作業療法の展開を理解する	・国試の過去問の例題を参考にして、大切な語句やかかわり方を理解することが出来る	木村映美
25	前期	「てんかん①」 ・てんかんの種類を知る	・全般発作と部分発作の違いがわかる ・全般発作の 6 つの特徴を理解する ・部分発作の 2 つの特徴を理解する	木村映美
26	前期	「てんかん②」 ・経過、予後、治療法を理解する ・作業療法の展開を理解し、かかわりのポイントを知る	・発作時の対応、薬物療法、生活指導等を学び、国試の過去問を解きながら理解を深める ・生じやすい問題点とかかわりの注意点を理解する	木村映美

27	前期	「依存症①」 ・依存症の種類を知る ・アルコール依存症と薬物依存症の違いを理解する	・精神依存と身体依存の違いを学び、離脱症状の内容等を、国試過去問を解きながら理解を深める	木村映美
28	前期	「依存症②」 ・経過、予後、治療法を理解する ・依存症の作業療法を知る	・依存症の評価するポイントと問題点を理解し目標と方向性を示すことが出来る ・かかわりのポイントを、国試過去問を解きながら理解を深める	木村映美
29	前期	「まとめ」 ・精神科の病気の種類が理解できる ・各疾患の特徴を理解し、作業療法の治療を知る	・統合失調症、気分障害、神経症（パニック障害・解離性転換性障害、強迫性障害、境界性パーソナリティ障害、摂食障害、てんかん、依存症、自閉症、アスペルガー、AD/HD）が出るようになる	木村映美
30	前期	「まとめと試験」 ・疾患の特徴を理解出来る ・国家試験の過去問が解けるようになる	・各疾患の特徴となる語句がつながるようになる ・試験に向けて国試の過去問を解く	木村映美
成績評価方法		授業態度・出席点 10 点 筆記試験 90 点 合計 100 点		
準備学習など		特になし		
留意事項		特になし		

学科・年次	作業療法科 2年次
科目名	精神障害治療学Ⅱ
担当者	田中敏彦・木村映美
単位数（時間数）	1 単位 （30 時間）
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	適宜資料配布

授業概要と目的

精神科病院での問題点を知り、実際に治療計画を立てていく。また、グループでのプログラム立案と発表をすることで、多くの考え方や治療方法を理解する。

アクティビティでは実際にプレーをして、精神科で行われる頻度の高いスポーツのルールや道具を理解する。

なお、作業療法士として、病院等で臨床経験のあるものが授業を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「臨床現場の紹介」 ・精神科病院の概要を知り、 問題点が理解できる ・問題点から治療立案を考える	・実際の病院を知ることで精神科の内容が 理解できる ・問題点を参考にしてグループで治療計画 を話し合う	木村映美
2				
3	後期	「治療立案作成」 ・グループで治療計画を立案し、 発表出来るようにまとめる	・グループ内で治療計画を話し合い、 目的、準備内容、治療内容、方法、リスク 管理、注意点等を細かく出す ・パワーポイントを使用し7分以内にまと める	木村映美
4				
5	後期	「治療立案発表」 ・グループで立案したプログラムの 発表をする ・臨床現場で実際行ったプログラ ムを理解する	・グループの発表を聞いて、様々な治療プ ログラムを知る ・自分たちに無かったアイデアや工夫して いる点などを学ぶ ・教員が臨床現場で行った内容を紹介して 問題点への考え方や実際のエピソードも聞き 理解を深める	木村映美
6				
7	後期	「精神科のアクティビティ①」 ・精神科で行われる頻度の高いバル バレーを行う上で必要な道具・ルール を理解する。	「バルバレーの体験」 ・バルバレーの道具・準備を理解できる。 ・バルバレーのルールを理解できる。 ・バルバレーを自分で行うことが出来る。	田中敏彦
8				
9	後期	「精神科のアクティビティ②」 ・精神科で行われる頻度の高い卓 球を行う上で必要な道具・ルール を理解する。	「卓球の体験」 ・卓球の道具（通常ボールとラージボール の違い）が理解できる。 ・卓球のルールを理解できる。 ・卓球を自分で行うことが出来る。	田中敏彦
10				
11	後期	「対象者への接触の仕方」 「治療と社会化」 ・患者との接触の仕方の基礎知識 と接触が困難な時の対応を理解 する。 ・社会化の意味を理解し、精神科	・接触を拒む患者への対応策を自分で2つ 以上考えることが出来る。 ・「13番目の客」の感想文として、精神科 での治療における社会化の必要性を理解 できる。	田中敏彦

		での治療に反映して考える。		
12	後期	「面接演習・ロールプレイ」 ・設定場面にて面接者・患者・観察者の役割を行い、面接に必要な態度を理解する。 ・設定場面にて作業療法実習生役の演技を見て、患者に対するコミュニケーションの取り方を理解する。	「面接とコミュニケーションのロールプレイ」 ・3人1組での面接のロールプレイで、面接者役・患者役・観察者役の3役を行うことが出来る。 ・観察者として面接者に客観的なコメントが出来る。 ・業療法実習生役の演技を見て、自分の場合の対応策を述べる事が出来る。	田中敏彦 木村映美
13	後期	「コミュニケーション演習」 ・初対面の人に対して、挨拶の後に3分間適切な会話を行う方法を理解する。	「初対面の人との会話」 ・ルーブリック評価表の項目・内容を理解し、段階5の評価に必要な態度・姿勢を理解できる。	田中敏彦 木村映美
14				
15	後期	「試験とまとめ」 筆記試験を通して、各回の講義内容を理解する。	「精神障害評価学」、「精神障害治療学Ⅰ」、「精神障害治療学Ⅱ」の授業を通して、精神科作業療法の内容を理解できる。	田中敏彦 木村映美
成績評価方法		出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 コミュニケーション演習 (28 点) 筆記試験 (72 点) を行い、合計 100 点 60 点以上を合格とする。		
準備学習など		特になし		
留意事項		特になし		

学科・年次	作業療法科・2年次
科目名	老年期障害治療学
担当者	山内太郎・田中敏彦・角本裕之進・外部講師
単位数(時間数)	2単位(60時間)
学習方法	講義とグループワーク
教科書・参考書	

授業概要と目的	
<p>本講義では、老年期障害に対する具体的な治療学について学ぶ。</p> <p>老年性の筋力低下など身体機能面に関して筋力テストなどの方法を知り治療に向けて考えを持てるようになる。後半の講義では、レクリエーションを利用した治療法について学ぶ。</p>	

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	「高齢者のアクティビティ①」 「マジック・手品の治療的応用」 手品の技法と枠組みを理解し、治療的応用の手段を考える。	・手品の演目を3種類、説明から自分で行うことができる。 ・手品の治療的応用を考えることができる。	田中敏彦 外部講師
2				
3	通年	「高齢者のアクティビティ②」 「バルーンアートの治療的応用」 風船の特性と素材の特徴を理解し、風船を立体的に組み上げる技法を学ぶ。	・バルーンアートの作品を2種類自分で作成することができる。 ・バルーンアートの治療的応用を考えることができる。	田中敏彦 外部講師
4				
5	通年	「高齢者のアクティビティ①」 「花札の治療的応用」 認知機能・身体機能の維持・改善のための麻雀の応用法を学ぶ。	「花札とその活用方法」 ・花札の道具が理解できる。 ・花札のルールを理解できる。 ・3人1組で取り組みを行うことができる。	田中敏彦
6				
7	通年	レクリエーションについて知る	レクリエーションとは何か答えることができる	山内太郎
8	通年	レクリエーション計画書について知る	レクリエーション計画書の書き方を覚えることができる	山内太郎
9	通年	レクリエーション計画書を作成する①	グループに分かれ、障害別レクリエーションの計画を立てることができる	山内太郎
10	通年	レクリエーション計画書を作成する②	グループに分かれ、障害別レクリエーションの計画を立てることができる	山内太郎
11	通年	障害を想定したレクリエーションの準備を行う①	グループごとにレクリエーションの準備をすることができる	山内太郎
12	通年	障害を想定したレクリエーションの準備を行う②	グループごとにレクリエーションの準備をすることができる	山内太郎
13	通年	障害を想定したレクリエーションの準備を行う③	グループごとにレクリエーションの準備をすることができる	山内太郎
14	通年	レクリエーションの発表をする①	全体に向けグループで考えたレクリエーションを計画通りに発表することができる	山内太郎

15	通年	レクリエーションの発表をする ②	全体に向けグループで考えたレクリエーションを計画通りに発表することができる	山内太郎
16	通年	レクリエーションの発表をする ③	全体に向けグループで考えたレクリエーションを計画通りに発表することができる	山内太郎
17	通年	レクリエーションの発表をする ④	全体に向けグループで考えたレクリエーションを計画通りに発表することができる	山内太郎
18	通年	レクリエーションの発表をする ⑤	全体に向けグループで考えたレクリエーションを計画通りに発表することができる	山内太郎
19	通年	レクリエーションの発表をする ⑥	全体に向けグループで考えたレクリエーションを計画通りに発表することができる	山内太郎
20	通年	レクリエーションのフィードバック	レクリエーションの実施状況や課題についてフィードバックを受け改善策を考えることができる	山内太郎
21	通年	喀痰吸引について理解することができる①	講義を受け喀痰吸引に対する知識を得ることができる	鷺見三重子
22	通年	喀痰吸引について理解することができる②	講義を受け喀痰吸引の対象者像を言うことができる	鷺見三重子
23	通年	喀痰吸引について理解することができる③	講義を受け喀痰吸引の方法を言うことができる	鷺見三重子
24	通年	喀痰吸引について実践することができる①	実習を通し、喀痰吸引の準備をすることができる	鷺見三重子
25	通年	喀痰吸引について実践することができる②	実習を通し、喀痰吸引のリスクを知ることができる	鷺見三重子
26	通年	喀痰吸引について実践することができる③	実習を通し喀痰吸引をすることができる	鷺見三重子
27	通年	生活行為向上マネジメント (MTDLP) 定義について理解する 各シートについて理解する	生活行為向上マネジメントの開発過程を知る 生活行為向上マネジメントの基本方針を知る 生活行為向上マネジメント実施の流れを知る	角本裕之進

28	通年	生活行為向上マネジメント (MTDLP) 各シートについて理解する 症例を提示し各シートに記述することができる	興味関心チェックシートを使用し、面接を行えるようになる 生活行為アセスメント演習シートの項目を知ることができる 生活行為向上プラン演習シートを使用することができる	角本裕之進
29	通年	生活行為向上マネジメント (MTDLP) 症例を提示し各シートに記述することができる	症例提示の情報から生活行為の目標を挙げる 問題点を「心身機能」「活動・参加」「環境因子」に分けることができる 予後予測を挙げる 生活行為工程分析を記述することができる 治療計画を3つのプログラムに分けることができる	角本裕之進
30	通年	MTDLPを通して症例検討し発表する 症例を通し、各シートに項目を記述ができるよう習得する	各シートの整合性を確認することができる 症例に対する各目標を述べる グループにて発表することができる	角本裕之進
成績評価方法		出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 山内：最終講義にて筆記試験（100 点）を行い、60 点以上を合格とする。 出席状況・授業態度・レクリエーションの発表とレポート提出により評価を行う。		
準備学習など		各グループごとに準備をしてもらうため、次に何をするかなどグループ間での共有が必要となる		

学科・年次	作業療法科 2 学年
科目名	発達障害治療学
担当者	田中敏彦・西岡 彩
単位数（時間数）	1 単位 30 時間
学習方法	田中：講義 ：講義・グループワーク・発表・臨床場面のビデオ鑑賞・課題提出 西岡：講義・グループワーク
教科書・参考書	田中：教科書（授業資料：講師からのプリント）

	西岡：教科書：イラストでわかる発達障害の作業療法
--	--------------------------

授業概要と目的
発達障害児への指導の考え方、アプローチの方法を学ぶ。また、発達に沿った指導目標の立て方、指導方法の理解ができるようになる。担当教員は、施設において作業療法士としての臨床経験を活かして授業を行う。(田中敏彦)
発達障害分野の施設で勤務している作業療法士が「重症心身障害」、「脳性麻痺」の作業療法の内容を担当する。グループワーク、授業を通して、重症心身障害児(者)を取り巻く環境などについて学んでいく。(西岡 彩)

回 (コマ)		「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	感覚刺激について知る	感覚統合の基礎的知識を学び、触覚、固有受容覚、前庭覚などについて説明できる。	西岡彩
2	後期	脳性麻痺児の治療の実際①	脳性麻痺の定義などについて理解する。 型別特徴について説明ができる。	西岡彩
3	後期	脳性麻痺児の治療の実際② 「重症心身障害児(者)の作業療法①」について知る	臨床で使用する評価方法を理解する。 重症心身障害児(者)の定義・臨床像を理解できる。	西岡彩
4	後期	「重症心身障害児(者)の作業療法②」について知る ※実技あり (動きやすい服装持参)	実際に臨床で使用している物品などに触れたりすることで治療イメージなどをつけていく。 二人介助での移乗方法を体験する。	西岡彩
5	後期	筋ジストロフィー 小児整形疾患について知る	筋ジストロフィーの分類について説明ができる。 代表的な小児整形疾患を理解できる。	西岡彩
6	後期	・座位保持装置・環境調整 ・家族・地域支援を含めた作業療法	・車椅子や座位保持装置について理解、説明できる。 ・地域と作業療法のかかわりについて理解できる。	西岡彩
7	後期	・ケーススタディ	・講師が紹介する症例からグループにて、評価から治療(支援)目標を列挙する。 ・またグループ内で討議していく中で考えをまとめることができる。	西岡彩

8	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・ケーススタディ ・まとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとの発表を聞き、自分と他者の考えの違いについて理解する。 ・本講義について自身の理解度について確認する。 	西岡彩
9	後期	「発達障害について」 自閉症スペクトラムの概要を理解する。	「自閉症スペクトラム障害」 自閉症スペクトラム障害の概要を説明でき、日常生活の中で考えられる問題を挙げられる。	田中敏彦
10	後期	「コミュニケーションスキル」 学校・家庭・地域において必要とされるコミュニケーションスキルを理解する。	「学校・家庭・地域での生活問題」 各場所において自閉症スペクトラム障害の特性として問題になりやすい点を挙げることができる。	田中敏彦
11	後期	「発達障害に対する SST①」 自閉症スペクトラムにおけるコミュニケーションスキルの向上方法として SST の概要を理解する。	「SST の目的と方法」 発達障害における SST の目的と方法を説明できる。	田中敏彦
12	後期	発達障害に対する SST②」 SST として活用できるプログラムを立案・作成する。	「SST プログラムの立案・作成」 発達障害における SST プログラムを立案し、必要な道具等を挙げ準備を行うことができる。	田中敏彦
13	後期	「発達障害に対する SST③」 立案・作成した SST プログラムを実践する。	「SST プログラムの実践」 立案・作成した SST プログラムを発表することができる。	田中敏彦
14	後期	「発達障害に対する SST④」 立案・作成した SST プログラムを実践する。	「SST プログラムの実践」 立案・作成した SST プログラムを説明することができる。	田中敏彦
15	後期	「まとめ」と「テスト」 まとめを通して講義全般の要点を理解する。	「まとめ」 講義全般の要点を再確認し、述べることができる。	田中敏彦
成績評価方法		田中：科目試験（筆記試験）にて 100 点満点で 60 点以上を合格とする。 西岡：科目試験（筆記試験）にて 100 点満点で 60 点以上を合格とする。 ※田中・西岡のそれぞれの担当分を合算とする。（田中：50%・西岡：50%）		
準備学習など		特になし		
留意事項		特になし		

学科・年次	作業療法科・2年次
科目名	身体障害治療学 I
担当者	本多亜希子
単位数（時間数）	2単位（60時間）
学習方法	講義・ペアで検査の練習
教科書・参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第4版 ・標準作業療法学 専門分野 高次脳機能作業療法学 第2版 ・神経診察クローズアップ 正しい病巣の診断のコツ 第3版 ・

授業概要と目的
<p>各疾患における作業療法を理解・実施できるよう各疾患の特徴、症状、評価法および治療・援助について学ぶ。</p> <p>同様に高次脳機能障害に対しても特徴、症状、評価法および治療・援助について学ぶ。</p> <p>小テストを行い、前回の授業の復習ができるようにする。</p> <p>評価の仕方においてはペアを組んで説明の仕方から実践的に行う。</p> <p>なお、作業療法士として、病院等で臨床経験のあるものが授業を担当する。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	「オリエンテーション」 ・この授業の流れ、目的を知る。 「脳血管障害総論①」 ・脳血管障害の概要を知る。	「オリエンテーション」 ・この授業の流れ、実習に向けて、評価基準を理解する。 「脳血管障害総論①」 ・脳梗塞と脳出血の違いを理解する。 ・脳梗塞の分類、脳出血の種類を理解する。	本多亜希子
2	通年	「脳血管障害総論②」 ・脳血管障害の症状を知る。 ・脳血管障害における代表的な評価を知る。	「脳血管障害総論②」 ・脳血管障害の症状を理解できる。 ・脳血管障害における代表的な評価項目を挙げる事ができる。	本多亜希子
3	通年	「脳血管障害総論③」 ・脳血管障害の症状を知る。 ・脳血管障害における代表的な評価を知る。	「脳血管障害総論③」 ・脳血管障害の症状を理解できる。 ・脳血管障害における代表的な評価項目を挙げる事ができる。	本多亜希子
4	通年	「脳血管障害総論④」 ・脳血管障害の症状を知る。 ・脳血管障害における代表的な	「脳血管障害総論④」 ・脳血管障害の症状を理解できる。 ・脳血管障害における代表的な評価項目を	本多亜希子

		評価を知る。	上げることができる。	
5	通年	「脳血管障害における急性期作業療法」 ・ベッドサイドでの評価を知る。 ・ベッドサイドでの作業療法を知る。	「脳血管障害における急性期作業療法」 ・ベッドサイドでの評価を上げることができる。 ・ベッドサイドにおける作業療法の目的、注意点を理解できる。	本多亜希子
6	通年	「脳血管障害におけるリスク管理、合併症」 ・合併症について知る。 ・脳血管障害における合併症を知る。	「脳血管障害におけるリスク管理、合併症」 ・合併症を上げることができる。 ・脳血管障害における代表的な合併症と危険因子、所見を上げることができる。	本多亜希子
7	通年	「脳血管障害における回復期作業療法」 ・回復段階に沿った訓練を知る。	「脳血管障害における回復期作業療法」 ・様々な麻痺側上肢機能訓練について理解できる。	本多亜希子
8	通年	「頭部外傷の分類」 ・頭部外傷の定義を知る。 ・頭部外傷の分類を知る。	「頭部外傷の分類」 ・頭部外傷の定義を理解できる。 ・局所性損傷とびまん性脳損傷の違いを理解できる。	本多亜希子
9	通年	「頭部外傷の障害像」 ・頭部外傷の障害像を知る。	「頭部外傷の障害像」 ・頭部外傷の障害像を理解できる。	本多亜希子
10	通年	「頭部外傷における評価・治療」 ・頭部外傷の評価を知る。 ・頭部外傷の治療を知る。	「頭部外傷における評価・治療」 ・頭部外傷の身体機能評価、認知機能評価、能力評価を上げることができる。 ・頭部外傷における病期別の作業療法を理解できる。	本多亜希子
11	通年	「パーキンソン病の症状、重症度分類」 ・パーキンソン病の定義を知る。 ・パーキンソン病の症状を知る。 ・パーキンソン病の重症度分類を知る。	「パーキンソン病の症状、重症度分類」 ・パーキンソン病の定義を理解する。 ・パーキンソン病の症状を上げることができる。 ・Hoehn-Yahr の重症度分類を理解できる。	本多亜希子

12	通年	「パーキンソン病の評価」 ・パーキンソン症候群を知る。 ・パーキンソン病の評価を知る。	「パーキンソン病の評価」 ・パーキンソン症候群を挙げることができる。 ・パーキンソン病の評価を挙げることができる。	本多亜希子
13	通年	「パーキンソン病の治療」 ・重症度分類別の作業療法を知る。	「パーキンソン病の治療」 ・重症度分類別の作業療法を理解できる。	本多亜希子
14	通年	「糖尿病の診断基準」 ・糖尿病の定義を知る。 ・糖尿病の診断基準を知る。 ・糖尿病の分類を知る。	「糖尿病の診断基準」 ・糖尿病とは何か説明できる。 ・糖尿病の診断基準を理解できる。 ・1型糖尿病と2型糖尿病の違いを理解できる。	本多亜希子
15	通年	「糖尿病の合併症」 ・糖尿病の合併症を知る。	「糖尿病の合併症」 ・糖尿病神経障害、糖尿病網膜症、糖尿病腎症について理解できる。	本多亜希子
16	通年	「低血糖について」 ・低血糖の症状を知る。 「糖尿病昏睡について」 ・糖尿病昏睡の分類を知る。	「低血糖について」 ・低血糖を起こす原因、低血糖値、症状、対応について理解できる。 「糖尿病昏睡について」 ・糖尿病ケトアシドーシスと高浸透圧高血糖症候群の違いについて理解できる。	本多亜希子
17	通年	「糖尿病の評価」 ・糖尿病における作業療法での評価を知る。 「糖尿病における運動療法」 ・糖尿病における運動療法を知る。	「糖尿病の評価」 ・糖尿病における作業療法での評価を挙げることができる。 「糖尿病における運動療法」 ・運動強度を設定できる。 ・運動の禁止・中止事項を挙げることができる。	本多亜希子
18	通年	「高次脳機能障害総論」 ・高次脳機能障害とは何かを知る。 ・高次脳機能障害にみられる特徴を知る。 ・高次脳機能障害の症状を知る。	「高次脳機能障害総論」 ・高次脳機能障害の定義を理解できる。 ・高次脳機能障害にみられる共通の特徴を理解できる。 ・高次脳機能障害を引き起こす疾患を挙げることができる。 ・高次脳機能障害と見立てるには何を観察するのかを理解できる。	本多亜希子

19	通年	<p>「注意障害の分類」</p> <ul style="list-style-type: none"> 注意障害の臨床症状を知る。 <p>「注意障害の評価」</p> <ul style="list-style-type: none"> 注意障害の評価を知る。 	<p>「注意障害の分類」</p> <ul style="list-style-type: none"> 注意障害の臨床症状をふまえ、注意障害の分類を理解できる。 <p>「注意障害の評価」</p> <ul style="list-style-type: none"> 注意障害の評価を上げることができる。 	本多亜希子
20	通年	<p>「注意障害の治療」</p> <ul style="list-style-type: none"> 注意障害の治療の方法を知る。 <p>「注意障害評価実施」</p> <ul style="list-style-type: none"> 注意障害の評価を実施する。 	<p>「注意障害の治療」</p> <ul style="list-style-type: none"> 注意障害の治療の方法、環境調整、対応の仕方を理解できる。 <p>「注意障害の評価実施」</p> <ul style="list-style-type: none"> 注意障害の評価を実際に説明の仕方から実施することができる。 	本多亜希子
21	通年	<p>「記憶障害の分類」</p> <ul style="list-style-type: none"> 記憶障害の分類を知る。 <p>「記憶障害の評価」</p> <ul style="list-style-type: none"> 記憶障害の評価を知る。 	<p>「記憶障害の分類」</p> <ul style="list-style-type: none"> 記憶障害の分類を理解できる。 <p>「記憶障害の評価」</p> <ul style="list-style-type: none"> 記憶障害の評価を上げることができる。 	本多亜希子
22	通年	<p>「記憶障害の治療」</p> <ul style="list-style-type: none"> 記憶障害の治療の方法を知る。 <p>「記憶障害評価実施」</p> <ul style="list-style-type: none"> 記憶障害の評価を実施する。 	<p>「記憶の治療」</p> <ul style="list-style-type: none"> 記憶の治療の方法、環境調整、対応の仕方を理解できる。 <p>「記憶障害の実施」</p> <ul style="list-style-type: none"> 記憶障害の評価を実際に説明の仕方から実施することができる。 	本多亜希子
23	通年	<p>「半側空間無視の分類」</p> <ul style="list-style-type: none"> 半側空間無視の分類を知る。 <p>「半側空間無視の評価」</p> <ul style="list-style-type: none"> 半側空間無視の評価を知る。 	<p>「半側空間無視の分類」</p> <ul style="list-style-type: none"> 半側空間無視の分類を理解できる。 <p>「半側空間無視の評価」</p> <ul style="list-style-type: none"> 半側空間無視の評価を上げることができる。 	本多亜希子
24	通年	<p>「半側空間無視の治療」</p> <ul style="list-style-type: none"> 半側空間無視の治療の方法を知る。 <p>「半側空間無視の評価実施」</p> <ul style="list-style-type: none"> 半側空間無視の評価を実施する 	<p>「半側空間無視の治療」</p> <ul style="list-style-type: none"> 半側空間無視の治療方法、環境調整、対応の仕方を理解できる。 <p>「半側空間無視の評価実施」</p> <ul style="list-style-type: none"> 半側空間無視の評価を実際に説明の仕方から実施することができる。 	本多亜希子
25	通年	<p>「失認の分類」</p> <ul style="list-style-type: none"> 失認の分類を知る。 <p>「失認の評価」</p> <ul style="list-style-type: none"> 評価前の確認事項を知る。 失認の評価を知る。 	<p>「失認の分類」</p> <ul style="list-style-type: none"> 失認の分類を理解できる。 <p>「失認の評価」</p> <ul style="list-style-type: none"> 評価前の確認事項を理解できる。 失認の評価を理解できる。 	本多亜希子

26	通年	<p>「失行症の分類」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・失行症の一般的特徴を知る。 ・失行症の分類を知る。 <p>「失行症の評価」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価前の確認事項を知る。 ・失行症の評価を知る。 	<p>「失行症の分類」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・失行症の分類を理解できる。 <p>「失行症の評価」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価前の確認事項を理解できる。 ・失行症の評価を理解できる。 	本多亜希子
27	通年	<p>「失語症とは」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・失語症の定義を知る。 ・話す障害の種類を知る。 	<p>「失語症とは」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・失語症の定義を知る。 ・話す障害の種類を知る。 	本多亜希子
28	通年	<p>「失語症のタイプ分類」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・失語症のタイプ分類を知る。 <p>「失語症の評価」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・失語症の代表的な評価を知る。 <p>「失語症患者の日常生活への援助」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・失語症患者と接する際の留意点を知る。 	<p>「失語症のタイプ分類」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・失語症の分類を理解できる。 <p>「失語症の評価」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・失語症の代表的な評価を理解できる。 <p>「失語症患者の日常生活への援助」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・失語症患者と接する際の留意点を挙げる ことができる。 	本多亜希子
29	通年	<p>「遂行機能とは」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遂行機能の定義を知る。 ・遂行機能の4つの要素を知る。 ・遂行機能障害の評価を知る。 	<p>「遂行機能とは」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遂行機能の定義を理解できる。 ・遂行機能の4つの要素を挙げる ことができる。 ・遂行機能障害のスクリーニング検査を 実施できる。 ・それ以外の評価を挙げる ことができる。 	本多亜希子
30	通年	<p>「まとめと本試験」</p>	<p>「まとめと本試験」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義で学習したことを小テストも踏ま えて、筆記試験で確認する。 	本多亜希子
成績評価方法		出席点・授業点（10%）、小テスト（20%）、本試験（70%）で評価します。 合計 100 点		
準備学習など		神経内科学、身体障害評価学Ⅰ、Ⅱで学習したことがベースとなりますのでしっかりと学習し ましょう。		

学科・年次	作業療法科 2年次
科目名	身体障害治療学Ⅱ

担当者	角本 裕之進
単位数 (時間数)	2 単位 (60 時間)
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	標準作業療法学 身体機能作業療法学

授業概要と目的
<p>作業療法分野には様々な領域があるが、本授業では整形外科疾患に対する作業療法を学び、評価・治療までを演習を含め実施することを目的とする。</p> <p>また整形外科疾患の概要をグループ内で調べ学習を実施することで、理解を深めることを目的とする</p> <p>なお、作業療法士として、病院等で臨床経験のあるものが授業を担当する。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「オリエンテーション」 「骨折とは」	「骨折とは」 ・骨折の原因による分類を述べる ・骨折線による分類を列記する ・骨の解剖を理解する ・ハバース管、フォルクマン管について調べる ・治療原則 (R I C E) とは何か述べる ・クリニカルパスについて述べる	角本裕之進
2				
3	後期	「上腕骨骨折の作業療法①」 ・上腕骨骨折の概要を理解する ・情報収集した内容を他学生へ報告する技能を身につける ・上腕骨骨折の評価について知る	「上腕骨骨折の作業療法①」 ・上腕骨骨折の諸型を述べる ・各上腕骨骨折に合併する神経麻痺を述べる ・ローテーターカフ、肩甲上腕リズム、インピンジメント徴候、関節上腕靭帯について調べる ・上腕骨骨折後の手術・固定法を述べる ・上腕骨骨折に関する評価内容を述べる	角本裕之進
4				
5	後期	「上腕骨骨折の作業療法②」 ・上腕骨骨折における治療技術を	「上腕骨骨折の作業療法②」 ・ローテーターカフ、肩甲上腕リズム、イ	角本裕之進

6		<p>修得する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報収集した内容を理解し、他学生へ報告する技能を身につける 	<p>ンピンジメント徴候、関節上腕靭帯について各グループで発表する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コッドマン体操を模倣することができる ・ストップングエクササイズを実施する 	
7	後期	<p>「橈骨遠位端骨折の作業療法」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・橈骨遠位端骨折における治療技術を修得する ・橈骨遠位端骨折に関する評価記述を修得する 	<p>「橈骨遠位端骨折の作業療法」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・橈骨手根関節について述べる ・手根中央関節について述べる ・橈骨遠位端骨折の種類および特徴、TFCC、手根骨の位置、CRPS についてグループで調べ、発表する ・ダーツスローを実施する ・8の字法を測定することができる 	角本裕之進
8				
9				
10				
11	後期	<p>「末梢神経損傷の作業療法」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・末梢神経損傷に対する作業療法を理解する ・末梢神経損傷における治療技術を身につける ・各神経損傷の特徴を理解する 	<p>「末梢神経損傷の作業療法」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腕神経叢について述べる ・正中神経、尺骨神経、橈骨神経の支配筋を列記する ・各神経の誘発テストを実施する ・浮腫に対する包帯法を模倣することができる ・NGE を学生同士で実施する 	角本裕之進
12				
13				
14				
15	後期	<p>「脊髄損傷の作業療法」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脊髄損傷の作業療法を理解する ・各残存レベルの機能を理解する 	<p>「脊髄損傷の作業療法」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ザンコリの分類を述べる ・脊髄ショックの症状を列記する ・脊髄損傷の神経症状を調べる ・テノデーシスアクションについて述べる ・車椅子の操作方法を模倣する 	角本裕之進
16				
17				
18				
19	後期	「大腿骨頸部骨折の作業療法」	「大腿骨頸部骨折の作業療法」	角本裕之進

20		・大腿骨頸部骨折の概要を理解する	・内側骨折、外側骨折の違いについて述べる	
21		・大腿骨頸部骨折の作業療法の位置づけを理解する	・ガーデンの分類を説明できる	
22			・人工骨頭置換術と人工股関節置換術の違いについて列記する	
			・脱臼方向を述べる	
			・脱臼を予防した ADL 動作を模倣する	
23	後期	疾患別作業療法の臨床推論① PBL チュートリアル	疾患別作業療法の臨床推論	角本裕之進
24			・画像所見より予想される障害を調べることができる	
25			・画像所見より予測される障害について、断定する評価項目を挙げることができる	
26			・障害についての治療アプローチを論文検索で調べることができる	
			・アプローチ方法についてスライドを用い発表できるように準備することができる	
27	後期	疾患別作業療法の臨床推論②	疾患別作業療法の臨床推論②	角本裕之進
28		発表	・スライドで発表することができる	
29			・質問に対応できる	
			・自身の臨床推論を説明することができる	
30	後期	「まとめと試験」 整形外科疾患の作業療法を理解する	「まとめと試験」	角本裕之進
			・整形外科疾患の作業療法について述べる	
			・各疾患の特徴、治療について列記する	
成績評価方法		出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 整形外科疾患に対する作業療法について筆記試験（100 点）を実施し、60 点以上を合格とする。		
準備学習など		運動学 I の事項を理解しておくことが望ましい		

学科・年次	作業療法科・2 学年
科目名	日常生活活動学 II
担当者	山内 太郎
単位数（時間数）	1 単位（30 時間）

学習方法	講義とグループワーク
教科書・参考書	日常生活活動（ADL）第2版<千住 秀明>

授業概要と目的
日常生活活動に関する評価法の種類を学び、治療的視点と生活支援的視点から日常生活活動について学ぶ。食事・更衣・排泄・整容・入浴といったADL指導の基本を身につける。なお、作業療法士として、病院等で臨床経験のあるものが授業を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	日常生活活動とは何か？ADLの概念、QOLの概念。	一年次覚えた言葉を思い出すことができる ADLやQOLを説明することができる	山内 太郎
2	前期	ADL評価の方法について知る①	ADL評価方法を列挙することができる	山内 太郎
3	前期	ADL評価の方法について知る②	評価方法や評価の内容を確認する 評価方法の特徴と目的を確認する	山内 太郎
4	前期	基本動作について知る①	臥位姿勢～座位にかけて動作の種類を覚え、実際に自分の身体の動きで確認をする	山内 太郎
5	前期	基本動作について知る②	座位～立位にかけて動作の種類を覚え、実際に自分の身体の動きで確認をする	山内 太郎
6	前期	基本動作について知る③	歩行動作の種類を覚え、実際に自分の身体の動きで確認をする	山内 太郎
7	前期	複合動作について知る①	基本動作の応用について知る 日常生活動作について、方法と特徴を覚えることができる	山内 太郎
8	前期	複合動作について知る②	日常生活動作について、方法と特徴を覚えることができる	山内 太郎
9	前期	リハビリテーション支援機器について知識をつける①	リハビリテーション支援機器の種類を覚える 福祉用具を触り使い方を考えることができる	山内 太郎
10	前期	リハビリテーション支援機器について知識をつける②	講義を受け、機器や用具の特徴や対象疾患について覚えることができる 車椅子を操作することができる	山内 太郎
11	前期	自助具の作成	グループにて、対象をイメージした自助具を作成することができる	山内 太郎
12	前期	自助具の発表	作製した自助具の特徴をクラスメイトに向け発表することができる 発表を聞き質問することができる	山内 太郎

13	前期	中枢系神経疾患のADLについて知る 神経筋疾患のADLについて知る	中枢神経疾患、神経筋疾患におけるADLの注意点を聞き、動作方法を考えることができる 考えた動作方法について、クラスメイトに対し発表をすることができる	山内 太郎
14	前期	呼吸、循環障害、骨関節疾患のADLについて知る	各疾患における、ADLの注意点を聞き、ADL方法をイメージすることができる	山内 太郎
15	前期	まとめ・試験	講義を受けた内容を覚え直し、試験用紙に記入することができる	山内 太郎
成績評価方法		学んだ内容の発表又は筆記試験により評価を行う。(100点)		
準備学習など		自助具等作成時、作成するものの材料について、各グループごとに準備をしてもらうため、次に何をするかなどグループ間での共有が必要となる		

学科・年次	作業療法科 2学年
科目名	義肢装具学
担当者	石井 寛隆
単位数(時間数)	1単位(30時間)
学習方法	講義・実技・スライド
教科書・参考書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト義肢装具学 (メディカルビュー)

授業概要と目的
<p>現職の義肢装具士が非常勤講師を担当する。</p> <p>義肢・装具の製作、模擬装具の装着体験により障害者の負担を軽減しQOLを高める為の知識、技術を学び義肢装具使用者に対する作業療法の理念と役割を理解する。</p>

回 (コマ)		「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	後期	「コメディカルスタッフの一員としての義肢装具士とのかかわりを理解する」 ① 基礎知識の確認(小テスト)	「義肢装具士とは何かを説明できる」 ① これから学ぶ義肢装具学についておまかに説明できる	石井 寛隆

2	後期	「義肢装具の支給体系と保険請求、費用の算定方法」 ① 義肢装具の支給体系を理解する ② 保険請求を理解する ③ 費用の算定方法を理解する	「義肢装具の支給体系と保険請求、費用の算定方法の説明できる」 ① 更生用、治療用の違いを説明できる ② 保険の種類、請求先、自己負担について説明できる ③ 費用の算定方法を理解できる	石井 寛隆
3	後期	「上肢装具製作を通じて姿位、目的を理解する」	「上肢装具製作を通じて姿位、目的を説明できる」	石井 寛隆
4	後期	① 陰性モデル作成、採型を理解する	① 採型方法を理解し陰性モデルを作成することができる ② 採型姿位について理解し目的に応じた的確な姿位を決めることができる	石井 寛隆
5	後期	② 陽性モデルとは何か理解する	③ 陽性モデル修正の方法を学び骨突起部の除圧を理解し説明できる ④ 適切なトレース、採寸方法を理解し実践できる ⑤ 熱可塑性樹脂の特性を理解しモルディング手技を行うことができる	石井 寛隆
6	後期	③ 装具仕上げ	⑥ ROMを理解し残存機能を有効に活かし何を装具によって代償できるのかを説明できる	石井 寛隆
7	後期	④ チェックアウト、適合を相対評価する	⑦ チェックアウトを通じて問題点を見つけ客観的に判断して改善することができる	石井 寛隆
8	後期	「下肢、体幹装具の使用目的と種類を理解する」	① 疾患に適応した装具の処方することができる ② 三点支持とアライメントについて理解し説明できる	石井 寛隆

9	後期	「障害模擬装具を装着して障害者が何に不自由を感じているのかを知ることにより何を補助すればQOLの向上に繋がるのかを理解する」	① 障害者に寄り添った作業療法、装具の処方を行うことができる	石井 寛隆
10	後期	「義肢装着前訓練（ソフトドレッシング）を理解する」	① ソフトドレッシングの方法を学び成熟した断端形成を行うことができる	石井 寛隆
11	後期	「義肢の目的と種類を理解する」 ① 義手の機能的、構造的な分類を理解する	① 義手の機能的、構造的な分類を説明できる	石井 寛隆
12	後期	② 切断部位による義手の名称を理解する	② 切断部位による義手の名称を説明できる	石井 寛隆
13	後期	③義足の構造的な分類を理解する ④ 切断部位による義手の名称を理解する	③ 義足の構造的な分類を説明できる ④ 切断部位による義足の名称を説明できる	石井 寛隆
14	後期	「歩行補助杖の種類と調節、車いすの種類と操作方法を理解する」	① 杖の使用法と調整方法を理解し合わせることができる ② 車いすの種類と部品の名称、操作方法を理解し説明できる	石井 寛隆
15	後期	「科目終了試験」	① 義肢装具に関する理解度を判断することができる	石井 寛隆
成績評価方法		<ul style="list-style-type: none"> ・科目試験 70%（試験 85 点、成果物 15 点） ・学習への意欲・レポート 30% 合計 100 点		
準備学習など		実技の際は、汚れてもよい服装と爪を短くしてくる		

--	--

学科・年次	作業療法科・2年次
科目名	職業関連活動学
担当者	山内太郎
単位数（時間数）	1 単位（30 時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	随時、授業資料を配布する

授業概要と目的	
<p>発症・受傷後のリハビリテーション治療を終えると、就業可能な年齢の場合、社会復帰の課題が前面に現れてくる。特に作業療法士は医療職の中でも「就労支援」の役割を期待されおり、本講座では「人が働く」ことの意味から始め、障害を負った方がいかに就労するか、作業療法士の評価の視点、就労支援を行う際に必要な知識・技術、就労支援を取り巻く「社会制度」、現在の問題点、などについて講義を行う。授業を通して「就労支援」の概要を理解し、説明できるようになることを期待する。なお、作業療法士として、病院等で臨床経験のあるものが授業を担当する。</p>	

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「“職業”とは」 人が働くとはどういうことか、その意味について理解する。	職業とは何かをテーマに、グループの中で話し合うことができる 話し合った内容を全体に向けて、発表することができる	山内太郎
2	前期	職業とは、職業の分類・意義を理解する。 就労から職業生活継続のための活動について理解する	いろいろな職業があること知る。 グループにて、いくつかの職業について、調べることができる。	山内太郎
3	前期	いくつかの職種における職業の特性を理解する	グループで調べて職業の概要を調べることができる。調べた職業に必要な能力を挙げることができる。	山内太郎
4	前期	他のグループ発表を聞き複数の職業について理解をする	調べた職業について、他グループへ発表することができる。 他グループの発表を聞き、他の職業について知ることができる	山内太郎

5	前期	人の職業的発達について理解をする	発達段階に応じた職業的発達段階を知ることができる	山内太郎
6	前期	障害者の就労について、どのような意味がある理解することができる	障害者にとって職業とはどのような意味を持つのか、グループで話し合うことができる。 話し合った内容を全体に向けて発表することができる	山内太郎
7	前期	特別支援学校における就労教育について知る	特別支援学校で行う就労教育について話すことができる	山内太郎
8	前期	職業と福祉用具について①	最新の福祉用具危機を体験することができる①	山内太郎
9	前期	職業と福祉用具について②	最新の福祉用具危機を体験することができる②	山内太郎
10	前期	作業療法の実際 (身体障害分野)	身体障害分野における職業リハビリの実際を知ることができる	山内太郎
11	前期	作業療法の実際 (精神障害分野)	精神障害分野における職業リハビリの実際を知ることができる	山内太郎
12	前期	各疾患に対し職業復帰に向けた計画を立てることができる	グループにて、指定された疾患に対し職業復帰に向けた取り組みを考えることができる	山内太郎
13	前期	各疾患に対する職業復帰計画を発表できるようにまとめることができる	指定された疾患に対する職業復帰の取り組みを発表用にまとめることができる	山内太郎
14	前期	職業復帰計画を発表することができる	全体に向けて発表することができる	山内太郎

15	前期	まとめと試験	受けた講義の内容を理解し紙面における質問に答えることができる。	山内太郎
評価方法		筆記試験 100 点		
準備学習など				

学科・年次	作業療法科 2 学年
科目名	作業療法臨床能力演習
担当者	本多亜希子、角本裕之進 (作業療法士)
単位数 (時間数)	1 単位 (30 時間)
学習方法	グループワーク 実技 講義
教科書・参考書	各分野の教科書

授業概要と目的
作業療法臨床能力演習とは、臨床の現場に即した評価技法となる。本授業では特に身体障害領域に関する作業療法評価技術の習得を目的とする。なお、作業療法士として、病院等で臨床経験のあるものが授業を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	『OSCE とは』 OSCE とは何か説明することができる	<ul style="list-style-type: none"> OSCE の意味を理解する OSCE の流れを述べるができる 	角本裕之進 本多亜希子
2	通年			
3	通年	「OSCE の評価」 評価の項目を理解する	<ul style="list-style-type: none"> 評価項目を述べるができる 評価項目の採点表を理解する 評価項目の基準を述べるができる 	角本裕之進 本多亜希子
4	通年			
5	通年	「OSCE 評価の実際」 見学・模倣させる	<ul style="list-style-type: none"> (関節可動域測定・徒手筋力検査・BRS・反射検査・失調検査・バランス検査・詩や検査) などの検査を見学し技法を理解することができる 	角本裕之進 本多亜希子
6				
7				
8				

9				
10				
11	通年	OSCE 演習・試験・まとめ ・各技法について実施することができる	・検査の説明ができるようになる ・リスク管理について述べるができる ・移乗の介助ができる	角本裕之進 本多亜希子
12				
13				
14				
15				
成績評価方法		出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 実技試験（100 点）を実施し、60 点以上を合格とする。		
準備学習など		身体障害評価学で学習した内容を理解しておくこと		

学科・年次	作業療法科 2 学年
科目名	作業療法臨床研究 I
担当者	角本 裕之進
単位数（時間数）	2 単位（30 時間）
学習方法	実習で学んだことをまとめ発表する
教科書・参考書	各分野の教科書

授業概要と目的
<p>実習を通して学んだことを臨床現場で規定以上の経験年数を持つ作業療法士の教員と学生の前で発表をする。</p> <p>発表の内容から質疑応答を交え、実習で学んだ経験をより深めていき、他の学生の症例発表を聞き経験していない症例も学ぶことができる。なお、作業療法士として、病院等で臨床経験のあるものが授業を担当する。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1~5 回 (15 コマ)	後期	「症例発表」 体験実習で学んだ事をより深く認識することができ、経験していない症例の評価も習得できる。	<ul style="list-style-type: none"> 臨床現場で経験した評価内容をまとめ、授業内で発表する。 質疑応答を設けることで、自分自身でも気付かなかった事や発表で出てない内容を再認識することができる。 他の学生の発表を聞くことで、経験していない症例を推論できる。 教員からのコメントを参考に、知識を広げる。 	角本 裕之進

成績評価方法	・発表の内容（質・声の大きさ・資料の見やすさなど）質疑応答の頻度や内容を評価する。 100点満点
準備学習など	実習で学んだことを復習しておく

学科・年次	作業療法科・2学年
科目名	地域リハビリテーション学
担当者	津金 芙蓉子・山内太郎・東久也
単位数（時間数）	2単位（60時間）
学習方法	講義とグループワーク
教科書・参考書	必要な資料は随時配布

授業概要と目的
<p>2040年の問題の課題、「生産年齢人口の急減」があります。高齢者・障害者・その家族が住み慣れた地域で、生き生きと安全に生活できるようにあらゆる人々や機関・組織がリハビリテーションの立場で協力し合い活動が行われている。その活動を主として健康・福祉・介護の理念・制度・実践などの地域福祉システムを具体的に理解する。</p> <p>理解することにより、作業療法士として“地域共生社会”におけるIPWの専門職と共に業務をスムーズに行うことを可能にする。（津金芙蓉子）</p> <p>病院・地域等で臨床経験のある作業療法士が、地域リハビリテーション分野における作業療法士の職域の歴史と概要の講義を行う。更に自動車運転についての講義も行う（山内太郎・東久也）</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標（GIO）	「授業内容」 到達目標（SBOs）	担当者
1	通年	「地域リハビリテーションの考え方」 一般目標 ① 地域福祉 地域での自立生活	「地域の自立生活」 到達目標 ① 「地域」の説明を可能にして「福祉」を考える ② 地域での自立生活を理解する	津金芙蓉子
2	通年	「社会保障制度の概論」 一般目標 ① 社会保障制度を理解する	「社会保障の種類と内容」 到達目標 ① 生涯にわたって生活を支えられている社会保障の内容を知る ② 社会保険の種類・サービス・内容を説明可能にする	津金芙蓉子

3	通年	「コミュニティ（地域社会）」 一般目標 地域福祉の展開	「地域福祉の発展と展開の考え方」 到達目標 ① 地域福祉の発展と展開の考え方を学び、現在の地域福祉の課題を見つける	津金芙蓉子
4	通年	「在宅福祉サービス①」 一般目標 ① 介護保険制度創設 介護保険制度の現状	「介護保険制度の現状」 到達目標 ① 介護の課題を理解して介護保険導入の背景・創設のねらい・仕組みを理解する。 創設後 20 年、実施の課題、改正の経緯を理解する	津金芙蓉子
5	通年	「在宅福祉サービス②」 一般目標 ① 介護保険（要介護者） 介護サービスの種類・内容	「要介護者の介護サービス種類・内容」 到達目標 ① 在宅サービス ・自宅に訪問 ・施設に通って ・施設に短期間入所 ・生活環境の整備 ② 施設サービス 特徴等を理解して説明可能にする	津金芙蓉子
6	通年	「在宅福祉サービス③」 一般目標 ① 介護保険（要支援者） 介護サービスの種類・内容 ② 介護予防（事業対象者） の基本知識 【提出課題－1】	「要支援者の介護サービス種類・内容」 到達目標 ①・訪問サービス ・通所サービス 特徴等を理解して説明可能にする ③ 介護予防の基本知識（栄養）を学び高齢者を理解して課題判断可能にする	津金芙蓉子
7	通年	「福祉・介護社会資源①」 一般目標 ① 社会資源と住民 ② 住民と多職種連携（IPW）	「社会資源の理解」 到達目標 ① 社会資源について理解する ② 連携する主な専門性について理解する 福祉教育必要性を考える	津金芙蓉子
8	通年	「福祉・介護社会資源②」 一般目標 ① 地域福祉推進機関 社会教育施設	「社会福祉協議会・公立図書館」 到達目標 ① 社会福祉協議会 機能・法的規定を説明可能にする 市町村立図書館 地域の自発的学習活動などの現状を把握する	津金芙蓉子

9	通年	「福祉・介護社会資源③」 一般目標 地域福祉推進団体	「地域福祉推進団体」 到達目標 ① 民生委員・児童委員制度の内容・活動を修得する ② NPO法人活動を修得する 地域保健を理解する	津金芙蓉子
10	通年	「地域包括ケアシステム」 一般目標 ① 地域包括ケアシステムの捉え方 高齢者を支える機関	「地域包括ケアシステムの事業内容」 到達目標 ① 高齢者の自立支援を多職種の専門的な視点を活用しながらの取り組み方法を学ぶ 地域包括支援センターの具体的な内容について修得する	津金芙蓉子
11	通年	「人生 100 年時代の健康①」 一般目標 ① ライフステージと食生活 ② 若年成人期・壮年期・高齢期の栄養摂取の相違を理解する	「人生各期と栄養」 到達目標 ① 乳幼児期・学童期・思春期・若年成人期・壮年期・高齢期の栄養課題を理解する ② 高齢期のカロリー摂取に関する考え方「ギアチェンジ」を理解する 高齢期の低栄養を理解する	津金芙蓉子
12	通年	「人生 100 年時代の健康②」 一般目標 ① 高齢者の口腔機能ケアの問題を修得する ② 健康保持の食生活（低栄養予防）-1	フレイル・オーラルフレイル予防-1 到達目標 ① フレイル・オーラルフレイルの状態・予防を理解・説明可能にする 「栄養バランス良い食事」を学び、高齢者の低栄養支援に生かす。	津金芙蓉子
13	通年	「人生 100 年時代の健康③」 一般目標 ① 健康保持の食生活（低栄養の予防）-2 健康づくり「食事バランスガイド」を利用 ② 時間栄養学の考え方を修得する	フレイル・オーラルフレイル予防-2 到達目標 ① 「食事バランスガイド」を理解し、フレイル・オーラルフレイル予防支援に生かす。 ② 時間栄養学の考え方を学び「栄養バランス食事」に取り入れる ③ 【演習】栄養バランス献立作成-1（朝食）	津金芙蓉子
14	通年	「人生 100 年時代の健康④」 一般目標 ① フレイル・オーラルフレイル予防（栄養）の実践 【提出課題-4】	フレイル・オーラルフレイル予防-3 ① 【演習】栄養バランス献立作成-2 ② 【演習】作成献立を「食事バランスガイド」でチェックする 【課題】「食事バランスガイド」チェックの結果をまとめ、整理する。	津金芙蓉子

15	通年	「まとめ・試験」 一般目標 ① まとめ	到達目標 ① “地域共生社会”におけるチーム医療の専門職、作業療法士の役割を再考する	津金芙蓉子
16	通年	「運転支援」① 一般目標 ① 介護医療の動向とリハビリテーションについて知る	到達目標 ① 2025年問題について述べるができる ② リハビリテーション・作業療法の意味を述べるができる	東久也
17	通年	「運転支援」② 一般目標 運転としての作業について知る	到達目標 ① 運転でなぜ作業療法士が関わることのべるができる ② 免許返納について理解できる	東久也
18	通年	「運転支援」③ 一般目標 運転に関わる認知機能について知る	到達目標 ① Michonの運転に関わる認知概念モデルについて理解する ②	東久也
19	通年	「運転支援」④ 一般目標 自動車運転に関する法制度について知る	到達目標 ① 道路交通法の変遷について知る ② 運転支援を要する疾患について知る ③ 高齢者と事故の因果関係について述べるができる	東久也
20	通年	「運転支援」⑤ 一般目標 運転支援に関わる評価について知る	到達目標 ① 運転適性について述べるができる ② 包括的運転評価について述べる ③ オフロード評価について述べる ④ ドライブシュミレーターについて述べるができる	東久也
21	通年	「運転支援」⑥ 一般目標 運転支援に関わる実車運転について知る	到達目標 ① 実車教習への評価項目について述べる ② 作業療法士と教官の違いについて述べる	東久也

22	通年	地域リハビリテーションとは何かを知る①	地域リハビリテーションの定義を知り、文節ごとに分けて考えることができる	山内 太郎
23	通年	自宅のそばにある地域支援サービスを探そう	PCや携帯電話を利用し、自宅近くの地域支援サービスを検索し、まとめることができる	山内 太郎
24	通年	地域支援事業とは何かを知る	地域支援事業とは、市区町村によって異なることを知る	山内 太郎
25	通年	地域支援事業 OT の役割について知る	名古屋市の支援事業とリハビリテーションの関わりを答えることができる 簡単なリハビリ体操を考えることができる	山内 太郎
26	通年	通所リハビリテーションと通所介護の役割について知る	デイサービスとデイケアとの違いを答えることができる	山内 太郎
27	通年	地域包括ネットワークについて知る①	地域包括ネットワークとは何か答えることができる	山内 太郎
28	通年	地域包括ネットワークについて知る②	地域包括ネットワークにかかわる職種について理解をすることができる	山内 太郎
29	通年	訪問リハビリテーションと訪問看護について知る①	訪問リハビリテーションと訪問看護の位置づけを理解することができる	山内 太郎
30	通年	まとめと試験	習った内容を復習し、質問されたことに答えることができる	山内 太郎
成績評価方法		津金：レポート提出 20 (5×4) 点 (※課題) 期末試験 80 点 山内：出席状況 (5%)、科目終了試験により評価を行う。(95%) 2 人の試験を平均し 100 点換算する		
準備学習など		授業中に次の授業範囲を通達するので、予習しておくこと 必要時は、事前に課題を提示する		

学科・年次	作業療法科・2 年次
科目名	生活環境学
担当者	山口 冴香
単位数 (時間数)	1 単位 (30 時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	サブノート

授業概要と目的	
<p>入院日数が短縮され早期退院傾向にある今日、地域医療の拡充が求められている。作業療法士も地域における活躍が期待されているが、住宅改修について基本的な知識を有しておくことは必須となっている。本講義では主に住宅改修を中心に、対象者の生活を取り巻く環境についてどのようなことに留意すべきか教科書・サブノートを使って学習し、生活環境に関する基礎的な知識の習得を目指す。なお、作業療法士として、病院等で臨床経験のあるものが授業を担当する。</p>	

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「総論」 生活環境とは何か、定義とリハビリテーションにおける生活環境の位置づけを理解する。	「生活環境論とは」 ・国際生活機能分類における生活機能について説明できる。 ・生活に関与する環境因子について説明できる。	山口冨香
2	前期	「生活環境整備の留意点」 個人と生活環境との関係性について学び、理解する。	「個人と生活環境との関係性」 ・個人と「もの」との関係について説明できる。 ・個人と「人」との関係について説明できる。 ・個人と「空間」との関係について説明できる。	山口冨香
3	前期	「社会保障制度①」 社会保障制度の仕組みを学び、私たちが提供する医療サービスがどのように成り立っているものなのかを理解する。	「生活の安定を図るための社会保障」 ・社会保障制度の4つの柱を述べるができる。 ・社会保険の5つの分類について述べることができる。 ・介護保険下でのサービス利用までの流れについて説明できる。	山口冨香
4	前期	「社会保障制度②」 介護保険サービスを利用し、在宅生活・入所生活の両側面から退院支援について理解する。	「介護保険を利用した退院支援」 介護保険を利用してどのような退院支援の方法があるかをグループで検討し、共有することができる。	山口冨香
5	前期	「社会保障制度③」 社会保障制度の中の社会福祉・公的扶助・保健医療公衆衛生について学び、理解する。	「社会福祉・公的扶助・保健医療公衆衛生」 ・社会福祉に含まれる障害者施策について説明できる。 ・障害者総合支援法の給付・事業にはどのようなものがあるか説明できる。	山口冨香

6	前期	「住環境整備①」 住環境整備の意義・整備の流れについて知る。段差／スロープ／手すりの設置について理解する。	「住環境整備の意義・整備について」 ・住環境整備の意義・整備の流れについて説明できる。 「段差／スロープ／手すり」 ・具体的な整備対策を説明できる。	山口冨香
7	前期	「住環境整備②」 住宅内の玄関／廊下／建具／照明／寝室／リビング／浴室／トイレにおける環境整備の考え方を理解する。	「玄関／廊下／建具／照明／寝室／リビング／浴室／トイレ」 ・具体的な整備対策を説明できる。	山口冨香
8	前期	「住環境整備③」 脳卒中・脊髄損傷と障害別での住宅改修のポイントを理解する。	「障害別住宅改修」 ・脳卒中および脊髄損傷患者における住宅改修について、障害の程度に応じた改修案を説明することができる。	山口冨香
9	前期	「福祉用具と障害別住宅改造例①」 住環境整備に関する福祉用具と実際の住宅改造例を理解する。	「基本動作・移動に関する福祉用具」 ・起居／移動に関する具体的な福祉用具対策を説明できる。	山口冨香
10	前期	「福祉用具と障害別住宅改造例②」 住環境整備に関する福祉用具と実際の住宅改造例を理解する。	「作業活動における福祉用具」 ・食事／整容／更衣／入浴／排泄／コミュニケーションに関する具体的な福祉用具対策を説明できる。	山口冨香
11	前期	「ポジショニング①」 ポジショニングの基本的な概念や原理、理論について理解する。	「ポジショニングの基本」 ポジショニングを行う目的や、実施する際の評価のポイントについて説明することができる。	山口冨香
12	前期	「ポジショニング②」 基本的なポジショニングの知識をもとに、個々の対象者に対応できる技術について学び、理解する。	「症例別ポジショニング」 ケーススタディを通して、個別性に応じたポジショニングを検討し、説明することができる。	山口冨香
13	前期	「医療安全」 医療事故や医療過誤を防ぎ、人的トラブルを起こさないための対策と、トラブルが起きた場合の対応策について理解する。	「危険予知トレーニング」 医療現場で潜む危険について話し合い、指摘し合って医療事故を未然に防ぐための説明をすることができる。	山口冨香

14	前期	「人間作業モデル」 人間作業モデルの概要や具体的な活用例について理解する。	「人間作業モデルの概要」 ・作業療法における研究及び理論展開、人間作業モデルについて学習し、その概要について説明できる。 ・実際の症例に即した人間作業モデルの活用の仕方と今後の展開について説明できる。	山口冨香
15	前期	「まとめと試験」 本講義の概略を説明し、理解度を確認する。	各講義の重要ポイント及び理解度について 国家試験などを利用して書面で説明できる。	山口冨香
成績評価方法		出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 最終講義にて筆記試験（100 点）を行い、60 点以上を合格とする。		
準備学習など		身近にある具体的な活用例があれば気に留めておくとよい。		

学科・年次	作業療法科・2 学年
科目名	地域作業療法学
担当者	山内 太郎
単位数（時間数）	1 単位（30 時間）
学習方法	講義とグループワーク
教科書・参考書	指定する教科書はないが、生活環境論などの本は参考となる

授業概要と目的
<p>地域における作業療法の仕事を理解する。</p> <p>作業療法士の視点に立ち、住環境と患者像を照らし合わせ、環境整備及び治療方針を検討する。</p> <p>なお、作業療法士として、病院等で臨床経験のあるものが授業を担当する。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	パーソン センタード ケアという言葉を知る	対象者を観る際の一つの方法として、パーソン センタード ケアという方法があるということを知ることができる	山内 太郎
2	前期	地域作業療法とは何かを知る①	地域作業療法という言葉のイメージを持つことができる	山内 太郎

3	前期	地域作業療法とは何かを知る②	地域作業療法の歴史について知ることができる	山内 太郎
4	前期	社会資源について知る①	どういったものが社会資源となるのかを知ることができる	山内 太郎
5	前期	社会資源について知る②	社会資源の活用方法について考えることができる	山内 太郎
6	前期	ケアマネジメント・アセスメントについて知る	ケアマネジメントとアセスメントの違いをこたえることができる	山内 太郎
7	前期	病院と地域作業療法について知る①	地域における病院の機能について答えることができる①	山内 太郎
8	前期	病院と地域作業療法について知る②	地域における病院の機能について答えることができる②	山内 太郎
9	前期	介護老人保健施設と地域作業療法について知る①	介護老人保健施設と地域作業療法について答えることができる①	山内 太郎
10	前期	介護老人保健施設と地域作業療法について知る②	介護老人保健施設と地域作業療法について答えることができる②	山内 太郎
11	前期	特別養護老人ホームにおける地域作業療法について知る	特別養護老人ホームにおける地域作業療法について答えることができる	山内 太郎
12	前期	通所介護（デイサービス）における地域作業療法について知る	通所介護（デイサービス）における地域作業療法について答えることができる	山内 太郎
13	前期	病院・施設での作業療法について発表する。①	グループで調べたことを全体に向けて発表することができる①	山内 太郎
14	前期	病院・施設での作業療法について発表する。②	グループで調べたことを全体に向けて発表することができる②	山内 太郎
15	前期	まとめ・試験	講義を受けた内容を覚え直し、試験用紙に記入することができる	山内 太郎
成績評価方法		出席状況・授業態度・課題提出・グループ発表・試験により評価を行う。		
準備学習など		各グループごとに準備をしてもらうため、次に何をするかなどグループ間での共有が必要となる		

学科・年次	作業療法科 2 学年
科目名	臨床実習Ⅱ
担当者	本多亜希子

単位数（時間数）	6 単位（270 時間）
学習方法	実習
教科書・参考書	各分野の教科書

授業概要と目的
病院や施設の役割や機能、作業療法士の業務を学ぶ。臨床実習指導者の指導・監督のもとに臨床技能を模倣・実施する。なお臨床経験 5 年以上で臨床実習指導者講習会を修了した作業療法士が指導を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
15 日間 2 施設	後期	<p>「体験実習」</p> <ul style="list-style-type: none"> 各臨床実習施設における作業療法および作業療法士の役割と機能を学ぶ。 臨床実習指導者の指導・援助のもとに、実習生が対象児・者を全体的に把握するために必要な評価方法を選択し、模倣・実施する。 作業療法を学ぶ学生としての基本的態度を習得し、作業療法士としてふさわしい資質の向上・充実をはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> 対象者や他部門から必要な情報を収集できる。 評価技法の選択、実施ができる。 全体像を把握し問題点を抽出することが出来る。 評価中、安全性を確保できる。 長期目標・短期目標を設定することができる。 治療計画を立てることができる。 各提出物が期限内に提出することができる。 記述、口頭での報告が適切にできる。 施設における部門の役割について理解することができる。 実習に対して意欲的、積極的に学習できる。 職場内での人間関係を円滑に保つことができる。 日常の規律を自覚し、守っていく態度をとれる。 感情、情緒面で安定した態度をとれる。 目標達成を目指して意欲的に努力することができる。 対象者の人権を尊重できる。 守秘義務を守ることができる。 対象者との関係を成立させることができる。 	本多亜希子、 角本 裕之進

			<ul style="list-style-type: none"> ・対象者に対して安全性を配慮できる。 ・緊急時又は問題解決ができない時に援助を求めることができる。 	
成績評価方法		<p>・指導者からの評価表を参考（80%）にし、出席・デイリーノート・症例報告書・実習態度など（20%）で評価する。合計 100 点。</p>		
準備学習など		<p>実習までの授業をしっかり習得すること 評価内容の実技を覚えていくこと コミュニケーション能力を高めておくこと</p>		